山口芸術短期大学研究紀要　第52巻，33から59（2020）

短期大学における保育者養成の課題(4)
―造形教育からの考察―

佐　藤　智　朗

1．はじめに

平成18年12月15日に改正された教育基本法[1)]に基づき政府が策定する教育に関する総合計画である教育振興基本計画[2)]（平成20年７月１日閣議決定）では、基本的方向３「教養と専門性を備えた知性豊かな人間を養成し、社会の発展を支える」として、「学士課程の学習成果として共通に求められる能力の養成➡学士課程の学習成果内容等の明確化や厳格な成績評価の導入等大学教育の質を確保するための枠組みを構築します」とある。大学（短期大学を含む）における学習成果の可視化が問われるようになった。

また、変化の激しい社会に対応するため、「これまで提言された様々な資質・能力について（イメージ案）」[3)]［資料１］などのように、社会に出るまでに、様々な資質や能力を身に付けることが求められるようになった。

第２期教育振興基本計画[4)]（平成25年６月14日閣議決定）では、基本的方向１「社会を生きぬく力の養成～多様で変化の激しい社会の中で個人の自立と協働を図るための主体的・能動的な力～」として、成果目標①「生きる力の確実な育成（幼稚園～高校）➡生涯にわたる学習の基礎となる『自ら学び、考え、行動する力』などを確実に育てる」、成果目標②「課題探求能力の習得（大学～）➡どんな環境でも『答えのない問題』に最善解を導くことができる力を養う」、成果目標③「自立・協働・創造に向けた力の修得（生涯全体）➡社会

資料１）これまでに提言された様々な資質・能力について（イメージ案）

を生き抜くための力を、生涯を通じて身に付けられるようにする」、成果目標④「社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成」とある。アクティブ・ラーニングの充実や大学教育の質保証、学習成果の評価活用、キャリア教育の充実などが求められている。

第３期教育振興基本計画[5]（平成30年６月15日閣議決定）では、方針１「夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する」として、目標①「確かな学力の育成」、目標②「豊かな心の育成」、目標④「問題発見・解決能力の修得」、目標⑤「社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成」として、自己肯定感や自己有用感の育成、学生本位の視点に立った教育の実現、高等教育機関における実践的な職業教育の推進などが求められている。

短期大学は、最後の教育機関として、卒業生が高い資質・能力を身に付けて社会に出ていけるような教育を提供しなくてはならない。さらには、ほとんどの卒業生が幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の両方を取得し、保育専門職に就く保育者養成を行っている短期大学は、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領の改訂（平成30年４月施行）にも対応した学習成果を定め、その達成を図らねばならない。

しかし、本来高等学校までに身に付けていなければならない資質や能力が不十分なまま、短大に入学してくる学生の割合は、年々大きくなっている。免許・資格取得に必要な学習、そして社会人としての学びの機会を提供し、学習成果を達成することは容易なことではない。

2015年に「子ども・子育て支援制度」[6]が施行され、「量」と「質」の両面から子どもの育ちと子育てを社会全体で支えることになった。また、2019年10月より幼児教育無償化が始まり、質の高い保育者が大量に必要になった。

保育者養成を行っている短期大学は、２年間で学生が、高等学校までに身に付けておくべき学力の三要素、学士力や保育者（幼稚園教諭免許・保育士資格取得）に必要な資質・能力、そして社会人として必要な様々な資質・能力を身に付けることができる場と機会を提供し、支援していかなければならない。

Ｙ短期大学は、建学の精神に基づく学修成果（学生が卒業までに獲得することが期待される知識、技術、態度などの能力）[7]を次のように定めている。

Ｙ短期大学　学修成果（４つの力）

①態度・志向性

社会で生きていくための基本的な態度を身につけ、地域社会に貢献する意欲をもっている。

②汎用的能力

社会生活に必要な能力を身につけ、状況に応じて活用できる。

③専門的知識・技能

専攻する専門分野における基礎的な知識・技能を修得している。

④総合的な学習経験と創造的思考力

修得した知識・技能等を総合的に活用し、直面する課題にそれらを適用して解決することができる。

また、大学の学修成果をより具体的にした「保育学科 幼児教育コース 学修成果（８つの力）」を次のように定めている。

①主体的に学び続ける意欲　②課題遂行能力

学び続ける意欲をもって主体的に考え行動し、他者と協調して生活することができる。

③豊かな感性と表現力　④倫理性

豊かな感性と教養を身につけ、高い倫理観や広い見識をもって、物事に取り組むことができる。

⑤保育の指導力　⑥保育の計画力

保育現場での実践に生かすことができる専門的知識や技能を身につけている。

⑦コミュニケーション能力　⑧問題解決能力

豊かな表現力と創造性をもって、他者と円滑にコミュニケーションを図りながら、保育実践上の課題を解決することができる。

さらに、授業科目ごとに学修成果定め、シラバスに明記している。ルーブリック（指標）を示している科目もある。

教員は、学生に分かり易く示したと思っているが、それは教員の側の自己満足に過ぎず、１日平均３～４コマの授業、半期に多ければ18科目の授業を学ぶ学生の多くは、目の前の授業をこなすことで精一杯で、十分な理解はできていないのではないだろうか。

「保育内容の理解と方法・造形」（2018年度入学生までは「保育表現技術・造形」）でも、授業目標［資料２］、シラバス［資料３・４］、授業計画表［資料５～７］、学習成果自己評価表［資料８］、チェック表［資料９・10］を学生に示し、主体的に

資料２）2019年度「保育内容の理解と方法・造形Ⅰ＆Ⅱ」授業の目標

【２０１９「保育内容の理解と方法・造形Ⅰ＆Ⅱ」授業の目標】

『子どもを笑顔にする。そして、自分も笑顔になる。』

『想像力や創造力（生きる力）を、体験を通して磨く』

『造形活動の面白さを知り、好きになる（本来は、作ること・描くことは大好き）』

１．　子ども主体の保育を行うために必要な基礎的な知識・技能がある

①　材料・用具・題材・表現媒体の特性や特徴を理解している
- 廃材など身の周りのあるものを、造形材料として見ることができ、分別して保管できる
- 造形材料の特性を理解し、使用できる
- 幼児の造形活動に可塑性のある紙、様々な形や色の廃材が重要であることを理解する
- 道具の特性を理解し、正しく、かつ適切に使用できる
- 接着剤の特性を理解し、適切に使用できる
- 表現媒体の特徴や作り方、活かし方を理解している
- 作る活動や描く活動を通して、指や手の働きを意識することができる

②　獲得した知識や技術を、技能として身につけることができる
- 早く丁寧に美しく制作し、できた作品を大切にすることができる
- 無駄なく適切に材料や用具を使うことができる
- 色々な表現媒体を制作している
- 頭の中で考えるのではなく、手を使って実際に形にすることができる

③　活動に明確な目的やねらいがあり、振り返りを通して改善できる
- 活動の目的やねらいを理解した上で、活動に取り組む（準備する）ことができる
- 活動を振り返り、課題や改善点を見つけ、次の活動に活かすことができる
- 他の人の作品や活動から学ぶことができる

２．　子ども主体の保育を行うために必要な判断力・想像力・表現力がある

①　判断力がある
- 子どもの発達段階（特に手や指の発達）に即した、題材･用具･題材を決めることができる
- 子どもの興味や関心を引き出す材料･用具･題材を、環境や経験に応じて提供できる
- 子どもの思いの変化や活動への躓き･発展に臨機応変に対応できる

②　想像力や企画立案力がある
- ねらいの応じた題材や材料を選び、提供することができる
- 子どもの思いや行動をイメージ（見通）して、表現活動を立案することができる
- 繋がり（発展性）がある造形表現活動を、立案することができる

③　表現力がある
- 表現媒体を活かすことができる
- 子どもに分かり易く説明ができる
- 経験したことを、文字や絵･写真で分かり易くまとめることができる

３．　主体性と協働性、向上心を持って学び続ける意欲がある

①　協働性を持って主体的に行動することできる
- 自分の役割を見つけて、主体的に行動することができる
- 状況を判断し、協働性を持って行動することができる

②　向上心を持って学ぶ続ける意欲がある
- 身の回りに、保育に活かせる題材や材料がないか、探すことができる
- 子どもや同僚、本やインターネットなどから学ぶ意欲がある

授業に臨めるよう、説明をしている。しかし、授業目標や到達目標はおろか、今から何を行うのかも分からずに、言われたことだけを行う学生は少なくない。

12年前（展示だけをの期間を含めると16年前）から開催している「お店屋さんごっこ大会」[8]を通して、子どもの笑顔は、保育者をめざす学生の意欲的な学び（活動）のスイッチを入れることが分かった。

当初は、お店屋さんごっこ大会のテーマとしていたが、現在は授業のテーマとして「子どもを笑顔にする。そして、自分も笑顔になる。」を掲げている。その上で、「想像力や創造力を、体験を通して磨く」「造形活動の面白さを知り、好きになる」をサブテーマとしている。最終的には、保育実践力（造形に関する）[9]に結び付けたいと考えている。そのため、見学実習を含めた実習を、実践の機会としている。また、地域の子どもを対象としたイベントを開催している。

２．目的

短期大学における保育者養成、とりわけ地方の小規模校は、保育者をめざす高校生の減少に加え、四年制大学志向により、志願する高校生は減少の一途をたどっている。また、入学者の資質・能力の差の拡大と低下、法律や制度（教員の要件など）の変更、求められている資質・能力の拡大、学習成果の確認（卒業後の追跡調査を行い検証することを含む）などへの対応に苦慮している。このままでは、介護福祉士養成と同じ道（社会のニーズは高くても、志願者の減少、養成課程や制度の変更、教員の要件、実習生を受け入れる（指導する）余裕がない介護現場の増加などから、養成を止めざるを得なくなる）を辿ることになる。

多くの卒業生が、保育現場で子どもたちの成長を支えている。保育現場から、短期大学の保育者養成へのニーズ（質の高い保育者を、多く輩出することへの期待）は高く、何としても存続させなくてはならない。

保育者養成の現状と課題を、造形教育の取り組みと成果から考察し、短期大学の保育者養成が生き残る道を探る。

資料３）2019年度入学生シラバス「保育内容の理解と方法・造形Ⅰ」

科目名	保育内容の理解と方法・造形Ⅰ（1単位）	演習	保育学科 幼児教育コース		1年 前期		担当者	佐藤　智朗（単独）	
ナンバリングコード	JC-S155-110								
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修	介護福祉士受験資格		
科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園）								
各科目に含めることが必要な事項	図画工作								
教科目	専門教育科目（保育士）								
系列	保育の表現技術								
ディプロマポリシー（DP）	a)学び続ける意欲をもって主体的に考え行動し、他者と協調して生活することができる。 b)豊かな感性と教養を身につけ、高い倫理感や広い見識をもって物事に取り組むことができる。 c)保育現場での実践に生かすことができる専門的知識や技能を身につけている。 d)豊かな表現力と創造性をもって、他者と円滑にコミュニケーションを図りながら、保育実践上の課題を解決することができる。								
授業のテーマ	造形表現活動に必要な知識や技術を実践的に習得する								
授業の概要	○子どもの発達、特に手の発達について、可塑性の高い紙を使った造形表現活動を通して考える。また、同時に基本的な材料・用具の特性や正しい使い方について実践的に習得する。 ○ものの色や形、重さや感触等に関心を持つ。 ○子どもを対象とした表現媒体の制作を行い、保育現場での実習（保育所２日間見学・課題実習）で使用して、活用方法や具体的展開のための技術を習得する。なお、演じ方、活かし方については保育表現技術・言葉で学ぶ。								

達成目標

達成目標	a	b	c	d
1.子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識や技術を習得する。			○	
2.造形素材としての紙の特性や扱い方（関連する材料・用具を含む）を習得する。			○	
3. 色や形を活かした表現媒体の制作を通して、特徴や制作方法を理解し、実践を通して表現力や活用技術を習得する。			○	○
4. 学んだことを記録し、知識や技術の定着を図ると共に、振り返る意味を理解し、分かり易くまとめる技術を習得する			○	

（科目 DP:c）

履修条件・注意事項	5/4以上の出席を単位認定の条件とします。また、道具類は各自で用意していただきます。
授業計画	1. 紙を使った造形表現活動①【折り紙の基本】、スケッチブックの表紙の制作①【紙芝居画面の選択】（目標1･2） 2. 紙を使った造形表現活動②【切り紙の技法：はさみの使い方】、スケッチブックの表紙の制作②【模写】（目標1･2） 3. 紙を使った造形表現活動③【折り切り紙】、スケッチブックの表紙の制作③【着色】（目標1･2） 4. 紙を使った造形表現活動④【画用紙：お話ちぎり絵、パンフレット：紙帯を使った制作】（目標1･2） 5. 新聞紙を使った造形活動①【新聞紙の特性】（目標2） 6. 新聞紙を使った造形活動②【可塑性を活かした制作・帽子を作る】（目標1･2） 7. ペープサートの制作①【基本的な作り方・自己紹介＞】、張り子人形の制作①【張り子の技法】（目標2･3） 8. ペープサートの制作②【色】、張り子人形の制作②【耳・鼻を作る】（目標2･3） 9. ペープサートの制作③【形】、張り子人形の制作③【着色】（目標2･3） 10. ペープサートの制作④【食材・料理】、ミニ舞台の制作（目標2･3） 11. 張り子人形の制作④【化粧・ニス】（目標1･2） 12. 張り子人形の制作⑤【組み立て】（目標1･2） 13. 紙を使った造形活動⑥【牛乳パックの加工方法】（目標2） 14. 紙を使った造形活動⑦【牛乳パック・段ボールを使った玩具の制作】（目標2･3） 15. 造形活動（手指を使う意味を含む）の意義、お店屋さんごっこ大会の開催目的（目標1･4）
アクティブ・ラーニング	実習・フィールドワーク
成績評価基準	評価の方法：授業内での制作作品（50%）、授業記録（50%） 評価の基準：授業作品（技能・表現：正しい使い方ができる・対象である子どもをイメージした表現になっている、及び関心・意欲：材料用具の特性を生かして向上心を持って活動に取り組んでいる）、授業記録（知識・理解：造形表現活動の必要な知識や技術習得状況、及び関心・意欲：授業中の学びだけでなく自ら調べたり、取り組んだ事項を記録している）
フィードバックの方法	作品や活動の様子を撮影し、その都度プリントにして返却する。期末に提出するスケッチブック（授業のまとめや制作や体験の振り返り）については、チェック表（授業開始時の配布）に基づき評価し、コメントを記入して返却する。
時間外の学習について	予習：授業予定表を事前に読み、授業内容を理解した上で授業に臨む。（15分） 復習：授業内容の記録を通して、振り返りを行い、知識や技術の定着を図る。（45分）
教材にかかわる情報	テキスト・参考書：使用しない 参考資料：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
担当者からのメッセージ等	指定した材料や用具は、各自が必ず準備して授業に臨んでください

資料４）2019年度入学生シラバス「保育内容の理解と方法・造形Ⅱ」

科目名	保育内容の理解と方法・造形Ⅱ（1単位）	演習	保育学科 幼児教育コース		1年 後期		担当者	佐藤　智朗（単独）	
ナンバリングコード	JC-S156-110								
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	選択必修	介護福祉士受験資格		
科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園）								
各科目に含めることが必要な事項	図画工作								
教科目	専門教育科目（保育士）								
系列	保育の表現技術								
ディプロマポリシー（DP）	a)学び続ける意欲をもって主体的に考え行動し、他者と協調して生活することができる。 b)豊かな感性と教養を身につけ、高い倫理感や広い見識をもって物事に取り組むことができる。 c)保育現場での実践に生かすことができる専門的知識や技能を身につけている。 d)豊かな表現力と創造性をもって、他者と円滑にコミュニケーションを図りながら、保育実践上の課題を解決することができる。								
授業のテーマ	様々な造形素材・表現媒体についての知識と技術を習得すると共に、コミュニケーション能力を養う。								
授業の概要	子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊び（ごっこ遊び）を題材として取り上げる。『お店屋さんごっこ大会』を通して、様々な造形素材の特徴や活用方法、そして子どもの発達（興味や関心）について学ぶと共に、コミュニケーション能力を養う。 実習で使用することを目的とした表現媒体の制作を通して、子どもの表現活動を引き出す教材の活用方法について学ぶ。なお、制作した表現媒体の演じ方、活かし方については言葉の指導法で学ぶ。								

達成目標

達成目標	a	b	c	d
1.子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識や技術を習得する。			○	
2.様々な造形素材特性や扱い方（関連する材料・用具を含む）を習得する。			○	
3.協働意識やお買い物ごっこ遊びを展開する力（対象の子どもを理解する力やコミュニケーション力を含む）を習得する。	○		○	○
4. 表現媒体の制作を通して、特徴や制作方法を理解し、実践を通して表現力や活用技術を習得する。			○	○
5.学んだことを記録し、知識や技術の定着を図ると共に、振り返る意味を理解し、分かり易くまとめる技術を習得する			○	

（科目 DP:c）

履修条件・注意事項	**保育表現技術・造形Ⅰの単位を修得していること。4/5以上の授業に出席していることを単位認定の要件とします。**
授業計画	1. お店屋さんごっこ大会①【商品の試作・廃材の特性理解】（目標1･2） 2. お店屋さんごっこ大会②【商品の制作】（目標 1･2･4） 3. お店屋さんごっこ大会③【チラシ・商品説明の制作】（目標2） 4. お店屋さんごっこ大会④【看板や店舗の制作】（目標1･2） 5. お店屋さんごっこ大会⑤【店舗の制作・商品の飾り付け】（目標1･2･3） 6. お店屋さんごっこ大会⑥【販売】（目標1･2･3） 7. お店屋さんごっこ大会⑦【振り返り】、パネルシアター①【絵人形の作り方】（、発泡スチロールを使った棒人形（鬼）の制作①【アイディアスケッチ・発泡スチロールの特性】（目標2･4･5） 8. 発泡スチロールを使った棒人形の制作②【カービングの技法】（目標2･4） 9. 発泡スチロールを使った棒人形の制作③【奉書紙貼り】パネルシアター③【絵人形の縁取り・切断、ハンドパネルの制作】（目標2･4） 10. 発泡スチロールを使った棒人形の制作④【着色・化粧】、パネルシアター④【絵人形の着色】（目標2･4） 11. 発泡スチロールを使った棒人形の制作⑤【ニス塗・髪の毛】、パネルシアター③【パネルシアター⑤【絵人形の縁取り・切断・仕掛け】（目標2･4） 12. 発泡スチロールを使った棒人形の制作⑤【組み立て】、パネルシアター⑥【仕掛け】（目標2･4） 13. パネルシアター⑥【応用舞台制作・舞台の使い方】（目標2･4） 14. 木片を使った造形活動【基本的な活動】（目標1･2） 15. 木の実・木の葉を使った自画像・ネームプレートの制作、まとめ【手を使う意味・造形素材や用具の特性・実践をとして学ぶ意味】（目標1･2･5）
アクティブ・ラーニング	グループワーク、及び実習・フィールドワーク
成績評価基準	評価の方法：授業内での制作作品（50%）、授業記録（50%） 評価の基準：授業内での制作作品（技術・表現：材料や用具の特性を生かし、対象である子どもをイメージした表現や制作ができている。及び関心・意欲：子どもの笑顔をイメージして、向上心や協働性を持って取り組んでいるか。授業記録（知識・理解：材料や用具の特性や活用方法を記録に留めておくことができる。関心・意欲：自ら学んだことや他の学生やグループなどから学んだことを記録に留めておくことができる）
フィードバックの方法	作品や活動の様子を撮影し、その都度プリントにして返却する。期末に提出するスケッチブック（授業のまとめや制作や体験の振り返り）については、チェック表（授業開始時の配布）に基づき評価し、コメントを記入して返却する。
時間外の学習について	予習：テキストを事前に読み、授業内容を理解した上で授業に臨む。（15分） 復習：授業内容の記録を通して、振り返りを行い、知識や技術の定着を図る。（45分）
教材にかかわる情報	テキスト・参考書：使用しない 参考資料：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
担当者からのメッセージ等	指定した材料や用具は、各自が必ず準備して授業に臨んでください

資料５）2019年度「保育内容の理解と方法・造形Ⅰ」授業予定表

2019年度「保育内容の理解と方法･造形Ⅰ」授業予定表　（月曜日）　担当：佐藤智朗

回数	月	日	主な内容･行事･注意点	○スケッチブックへのまとめポイント／※課題	配布物／準備物	持参物	絵本
1	4	8	①授業の目標･授業計画説明（丁寧･早く･美しく） ②福音館絵本の紹介（絵本を読む意味） ③スケッチブックのまとめ方（カメラの使用について） ④紙を使った制作（折り紙･切り紙を含む）：手で考える、丸を切る、身の回りの材料に目を向ける ⑤折り紙の価値（巧緻性･量や形の変化、平面の立体化） ⑥道具の用意（はさみ･でんぷんのり･カッター･ホチキス･30cm以上の定規･油性黒マジックは5/6、アクリル絵の具一式は4/22までに） ⑦12色のマジックを使って自己ＰＲポスター（目標）を描く（写真撮影：笑顔で写真撮影に応じる意味）	○授業目的 ○絵本リスト（題名･作者･感想） ○はさみの正しい使い方 ○折り紙･切り紙を行う意味 ○折り紙･切り紙の作り方･作品（兜➡金魚･ポロシャツ･箱･コップ･5角形･6角形･8角形） ○材料の無駄を出さない活動･片付け方 ○12色を使う意味 ※スケッチブックのラベルを剥がす（ドライヤーで熱を加えてから）	前期授業予定表･チェックリスト･ルーブリック･連絡事項を記したプリント･スケッチブック（白）･使用済みのパンフレット･折り紙･福音館絵本の紹介カタログ･SBを入れるビニール袋／はさみ･12色マジック･スティックのり	講義概要	とん　ことり サンドイッチ サンドイッチ
2		15	①身体メジャー ②紙の特性（可塑性･大きさ･厚み･紙の目） ③手（指）を使う意味 ④お話千切り絵 ⑤スケッチブックの表紙制作(1)（紙芝居選択）	○指の間･床からの高さ(股･へそ･胸)･両手を広げた幅 ○紙の大きさ･厚みを示す単位、可塑性･紙の目 ○手（指）を使った活動の意味 ○お話ちぎり絵の展開 ○選んだ紙芝居のタイトル･内容･選んだ理由	8切り画用紙･使用済みのカタログ･はさみ／紙芝居袋･1m定規･12色マジック	（はさみ･のり･ホチキス） 鉛筆･スケッチブック 福音館絵本の注文（代金12か月分を同封）	てとてとて
3		22	①パンフレットを使った造形活動 ②紙コップを使ったこいのぼりの制作 ③スケッチブックの表紙制作(2)紙芝居の模写※表面を傷つけないように気を付ける	○紙の可塑性（カール）を活かしたタコ（吹き流し） ○紙帯を使った制作（花･顔･虫） ○紙コップの特性･制作方法 ○アクリル絵の具の使い方	使用済みのパンフレット･折り紙･紙コップ／12色マジック	（はさみ･のり･ホチキス）スケッチブック･アクリル絵の具一式･紙芝居	げんきなかみ
4		29	①新聞紙の特性（大きさや厚み･紙の目） ②新聞紙を活かした遊び体験(1)（音を創る･お話Ｔシャツ･帽子･袋） ③スケッチブックの表紙制作(3)アクリル絵の具で着色	○新聞紙の特性（大きさ･厚み･紙の目･保温） ○10の音の出し方 ○お話Tシャツ ○帽子	新聞紙･千切った新聞紙を保管するビニール袋／1m定規	はさみ･糊･スケッチブック･アクリル絵の具一式･紙芝居	みんなでつくっちゃった
		2～5	①紙芝居を保護者の前で演じる【「保育の方法と理解･言葉」で指示】 ②スケッチブックの表紙制作(4)着色➡油性マジックあるいは色鉛筆で縁取り（傷を付けないようにして持ち運ぶ） ③はさみ･でんぷん糊･カッター･30cm以上の定規･油性黒マジック･空き箱またはドキュメントファイルの用意				
5	5	6	①お店屋さんごっこ大会の説明 ②新聞紙（広告）の特性･活かした遊び体験(2) ③スケッチブック表紙制作(5)写真撮影➡フィルム貼り（表面の保護）	○お店屋さんごっこ大会の商品制作上の注意 ○メービウスの輪･千切り･丸めて野菜･パンを作る･丸めて切る･ブーケ【お店屋の商品として使用】の作り方 ○表紙制作で感じたこと	お店屋さんごっこ大会要項･フィルム（ブッカー）･新聞紙･広告	紙芝居（返却）･ハンカチ･はさみ･カッター･アクリル絵の具･でんぷん糊･スケッチブック	からすのぱんやさん
6		13	①ペープサート(1)基本の作り方（自己紹介･クレヨンバージョン）【「保育の方法と理解･言葉」で演じ方･活用方法】 ②ペープサート舞台の制作 ③絵人形の保管方法（空き箱orドキュメントファイル）	○ペープサートの価値･作り方 ○自己紹介･色画用紙を使ったクレヨンバージョンの説明 ○金槌の使い方 ※奉書紙を千切ってくる	角材･ベニヤ板･釘･奉書紙･8切り画用紙･割り箸／木工用ボンド･金槌･工作カラー(黒)･刷毛･クラフトテープ	でんぷん糊･ドキュメントファイル･はさみ	エンとケラとプン
			5/14～5/17亀山幼1日見学				
7		20	風船を利用した張り子人形&帽子の制作(1)風船に奉書紙を貼る 【お店屋の商品として使用】	○張り子の技法（人形･帽子の作り方） ○手･指の使い方（千切る･貼る･伸ばす） ○糊の感触 ○出来上がりのイメージ図	ヨーヨー風船･風船･水糊･奉書紙･新聞紙／皿	エプロン	
8		27	張り子人形&帽子の制作(2)耳や鼻、手を作る･服の型紙作成	○平面を立体にする方法 ○両面テープの使い方 ○出来上がりのイメージデザイン	水糊･奉書紙･厚紙･新聞紙／紙粘土･両面テープ･皿	はさみ･ホチキス･ペープサート舞台	わたしのワンピース
9	6	3	①張り子人形&帽子の制作(3)着色 ②ペープサート(2)色バージョン【「保育の方法と理解･言葉」で演じ方･活用方法】	○人形のキャラクター設定（名前･性別･年齢･性格･好きな食べ物･苦手な食べ物･特技･欠点など） ○ペープサートの工夫点 ※透けない布を準備して服を作る	8切り画用紙･色画用紙･割り箸／クラフトテープ	はさみ･カッター･アクリル絵の具一式･油性黒マジック･でんぷん糊･ドキュメントファイル･ペープサート舞台	いろいろばあ もっといろいろばあ
10		10	①張り子人形&帽子の制作(4)化粧･ニス塗り ②ペープサート(3)影バージョン【「保育の方法と理解･言葉」で演じ方･活用方法】	○化粧の意味 ○ニスの塗り方･使い方 ○ペープサートの工夫点 ※透けない布を準備して服を作る	8切り画用紙･色画用紙･割り箸／クラフトテープ	色鉛筆･はさみ･カッター･油性黒マジック･でんぷん糊･ドキュメントファイル･ペープサート舞台	やさいのおなか やさいのせなか
11		17	①張り子人形&面･帽子の制作(5)組み立て･動かし方（写真撮影）【「保育の方法と理解･言葉」で演じ方･活用方法】 ※髪の毛を付ける ②ペープサート(4)回転バージョン【「保育の方法と理解･言葉」で演じ方･活用方法】	○組み立て方 ○ペープサートの工夫 ○張り子人形の写真（張り子人形の制作を通して感じたこと）	8切り画用紙（回転バージョン下絵）･割り箸／クラフトテープ	服･針･糸･毛糸･はさみ･・アクリル絵の具一式･でんぷん糊･ドキュメントファイル･ペープサート舞台	ぶたにしましまあったっけ？
12		24	①廃材を使った造形活動（並べる･積む･重ねる他） ②廃材に目や口を付けて擬人化する（見立てる） ※活動の流れをグループで確認（写真撮影） ②ペープサートの絵人形撮影（教室後方）	○使用した廃材の特徴 ○並べる･積む･重ねる･分ける･構成する意味 ○ペープサートの写真	撮影用の番号札･廃材･画用紙／セロハンテープ	廃材･はさみ ペープサート絵人形全て（舞台は必要なし）	ぞうくんのさんぽ ぞうくんのあめふりさんぽ
		25･26	保育所2日間見学（張り子人形･ペープサートの実践） ※実践から学んだことをスケッチブックに記入			ペープサート一式･張り子人形	
13	7	1	廃材･紙コップを使った造形活動（テーブルシアターの制作）	○テーブルシアターの意味：廃材の形状や色を活かし方。見立てる=想像力を働かせること） ○テーブルシアターの演じ方 ○紙コップの特性②紙コップを使った人形の制作	廃材･紙コップ	廃材･はさみ･カッター･油性黒マジック	紙コップでつくろう
14		8	①紙筒の特性（使い方･集め方･遊び方） ②起き上がりこぼし（クラフトテープの芯利用） ③でんでん太鼓（セロハンテープの芯を利用） ④レインスティック（紙筒を利用）の説明 【お店屋の商品として使用】	○紙筒の特性（種類･遊びへの活かし方） ○起き上がり小法師の作り方（だるまさんが） ○レインスティックの作り方 ○千枚通しの使い方 ○子どもに提供する玩具の注意点（安全性･堅牢性･発展性）	紙筒（ラップ･セロハンテープ･クラフトテープの芯）･千枚通し･爪楊枝･タコ糸･ビーズ／木工用ボンド･ビニールテープ.	紙筒各種･マジック･マスキングテープ	だるまさんが
15		15	牛乳パックを使った制作(1) フリスビー･独楽･蛇･帽子を作る 【お店屋の商品として使用】	○牛乳パックの特性（大きさ･形状･材質･遊びへの活かし方） ○牛乳パックを使った玩具の制作方法① ※商品として、幼児の手に渡ることを考えて補強や修正を加える	ペープサートの写真、セロハンテープ･クラフトテープ･両面テープ	1Lの潰していない牛乳パック（3個）･はさみ･カッター･ホチキス･マジック･30cm以上の定規	ねずみのでんしゃ
16		22	牛乳パックを使った制作(2) 車･シャベル･コップ･ワニを作る 【お店屋の商品として使用】	○牛乳パックを使った玩具の制作方法② ○カッター･定規･糊の使い方 ○廃材を含む造形材料を使った制作で感じたこと ※商品として、幼児の手に渡ることを考えて補強や修正を加える	片面段ボール･タコ糸･ストロー／木工用ボンド	1Lの潰していない牛乳パック（3個）･はさみ･カッター･ホチキス･マジック･30cm以上の定規	バスくん
17		29	①授業のまとめ ②お店屋さんごっこ大会について説明（グループ分け） ③夏休みの課題説明 ④スケッチブックの提出【返却は、8月31日（土）の保護者会】	○4か月の授業で、身についた力や学んだこと ○お店屋さんごっこを行う意味	泥団子制作実践報告書･弁当容器 コンテナ（SB提出用）	スケッチブック	カジパンちゃんちは何屋さん
お店屋さんごっこ大会まで保管しておく作品 ＜商品として、幼児の手に渡ることを考えて補強や修正を加える＞				①張り子の帽子　②新聞紙･広告のブーケ　③起き上がりこぼし･でんでん太鼓　④牛乳パックを使った玩具（車やワニなど）			
夏休みの課題（9/23持参） ＜②～④幼児の遊んでいる姿をイメージする。また強度や安全性に配慮する＞				①子どもと創る泥団子の制作（報告書）　②レジスター制作（空き箱利用、幅30cm×奥行40cm×高さ30cm以内）　③お弁当の制作（子どもが詰め替えることができる）　④紙筒を使った楽器（レインスティック）の制作　⑤新聞紙を使った袋			

資料６）2019年度「保育内容の理解と方法・造形Ⅱ」授業予定表

2019年度「保育内容の理解と方法･造形Ⅱ」授業予定表　（月曜日）　担当：佐藤智朗

回数	月	日	主な内容･行事･課題	○スケッチブックへのまとめポイント／※課題	配布物／準備物	持参物	絵本
1	9	23	①課題提出（泥団子報告書･レジ･お弁当･楽器･袋）➡撮影 ②お店屋さんごっこ大会（1）制作商品の決定･店舗イメージ作成 ③木の実･木の葉･小枝採集について	○一つひとつの商品を丁寧に心を込めて作る意味 ○どんぐりの種類、採取・保斬方法 ○夏休みの課題（レジスター・お弁当・レインスティック・新聞紙の袋）の制作方法・材料、及び制作した感想 ※写真（9／30配布）	脚本･Ｐペーパー、チェック表、商品制作費、ドングリ関係資料	泥団子制作実践報告書･レジスター･お弁当･レインスティック	ともだちや
2		30	お店屋さんごっこ大会(2)商品制作	○商品の制作方法・材料		商品制作に必要な物品	パン屋のろくちゃん
3	10	7	お店屋さんごっこ大会(3)商品制作･店舗紹介PR文提出（HPに掲載） 代表商品PR写真撮影			商品制作に必要な物品	ゴリラのぱんやさん
4		14	お店屋さんごっこ大会④商品制作			商品制作に必要な物品	どんぐり村の帽子屋さん
		18	（16:20～18:30）【体育館】 商品の移動、看板･飾りの制作	○子どもを惹きつける飾り付けの工夫 ・子どもの視線や動線 ・分かり易い表示 ・商品の並べ方 ○段ボール（箱）の特性・加工方法 ○布テープ・養生テープの特性・使い方	養生テープ、布テープ、ごみ袋／段ボール箱、2mの筒、不織布、マット。工作椅子、段ボールカッター、セロハンテープ台、クラフトテープ台	看板･飾りの制作に必要な物品	
5		19	準備（9:00～12:00）【体育館】飾り付け			カッター･はさみ･店舗制作に必要な物品	
6		20	大会（8:45～12:45）【体育館】	○お店屋さんごっこ大会を通して学んだこと ○子ども（保護者）の反応 ※チェック表の確認		エプロン	
7		21	①お店屋さんごっこ大会のまとめ（ポートフォリオ作成） ②パネルシアター(ⅰ)絵人形の制作方法 ③見た目は怖いが心の優しい鬼の制作(1)イメージ図の作成	○お店屋さんごっこ大会の写真の整理（コメントの書込み） ○パネルシアターの特徴・絵人形の制作方法 ○見た目は怖いが心の優しい鬼を作る意味・出来上がり予想図	イメージ図用の用紙	スケッチブック･はさみ･のり･マーカー 材料費【パネルシアター･人形製作費】2,500円（予定）	島ひきおに
8		28	見た目は怖いが心の優しい鬼の制作(2)発泡スチロールを削る	○発泡スチロールの特性・加工方法 ○マイナスの造形（カービング）の意味 ○人形制作方法①	発泡スチロール、ベース台、軸棒、サンドペーパー／段ボール箱	エプロン･カッター･イメージ図	まゆとおに
9	11	4	①パネルシアター(2）絵人形の制作（アクリル絵の具で着色） ②見た目は怖いが心の優しい鬼の制作(3)耳や鼻を付ける、奉書紙を貼る	○人形制作方法② ○一つひとつの工程を積み上げて作品を作る意味	厚紙、奉書紙、水糊･発泡スチロール（端）	ホチキス･はさみ･アクリル絵の具一式	だごだご　ころころ
10		11	①パネルシアター(3)絵人形の制作（着色） ②見た目は怖いが心の優しい鬼の制作(4)アクリル絵の具で着色	○人形制作方法③		アクリル絵の具一式 パネルシアター下絵	こぶとりじいさん
11		18	①パネルシアター(4)絵人形の制作（着色） ②見た目は怖いが心の優しい鬼の制作(5)化粧･ニス塗り･服の型紙	○人形制作方法④ ○化粧の意味	／ニス･刷毛･新聞紙	色鉛筆･アクリル絵の具一式 パネルシアター下絵	鬼じゃないよおむすびだよ
12		25	①パネルシアター(5)絵人形の制作（縁取り） ②見た目は怖いが心の優しい鬼の制作(6)手･髪の毛･服の制作	○人形制作方法⑤ ※服の制作		パネルシアター下絵･油性マジック（黒）･フェルト･布･裁縫道具一式･毛糸（髪の毛用）	おにのよめいり
13	12	2	①パネルシアター(6)絵人形の制作（切断の説明） ②見た目は怖いが心の優しい鬼の制作(7)組み立て･完成、キャラクター設定➡写真撮影【「表現の指導法･言葉」で演じ方・活用方法】	○人形制作方法⑤ ○キャラクター設定	スポーク･丸棒各2本･ゴム、瞬間接着剤／木工用ボンド･	パネルシアター下絵はさみ･針･木綿糸（白）･フェルトの残り	さつまのおいも
14		9	①パネルシアター(7)絵人形の制作（仕掛けの説明）【「表現の指導法･言葉」で演じ方・活用方法】 ②応用舞台の制作➡絵人形の写真撮影	○仕掛け ○のこぎりの使い方 ○応用舞台・ハンドパネルの作り方・使い方	写真、合板、パネル布、クラフトテープ、Wクリップ、綴じ紐／木工用ボンド	はさみ。カッター、針･木綿糸（白） 棒人形を持って帰る袋	はっぱ
15		16	木片を使った造形活動(1)並べる･積む･重ねる他 ※活動の流れをグループで確認（写真撮影）	○木片の価値・活かした遊びの展開	写真･木片／カメラ		ふゆめがっしょうだん
16		23	木の実や枝を使った造形活動(2)ねずみ･ネームプレート制作	○木工用ボンド･グルーガンの使い方 ○木片の遊びの写真貼り付け（コメント記入）	写真、杉板･木片、物語ペープサートの下絵・脚本／ニッパ･のこぎり・グルーガン・延長コード	どんぐり（かくとを含む）･木の葉･小枝、木工用ボンド	フレデリック
冬休み				※応用舞台（62×47×2㎝）を入れる袋の制作 ※物語ペープサートの絵人形制作		キルティング	
	1	11～13	幼稚園3日間実習	※幼稚園での実践から学んだこと		パネルシアター一式･棒人形	
17		20	授業のまとめ SB提出（後期末ORの後に返却）	○木の実・木の葉・小枝を使った制作の写真の貼り付け（コメント記入） ○1年間の授業で、身についた力や学んだこと	写真 コンテナ（SB提出用）	スケッチブック･はさみ･のり･マーカー	はなをくんくん ありがとうのきもち

資料７）2019年度「保育内容の理解と方法・造形Ⅱ」授業予定

2019（令和元）年度後期「保育内容の理解と方法・造形Ⅱ」授業予定　　授業担当:佐藤智朗

授業内容		お店屋さんごっこ	怖い人形	パネルシアター	木の実・木の葉・木片	創作紙芝居【コラージュ】	授業のまとめ【スケッチブック】
授業目的		・造形材料の活用方法を研究し、速く･丁寧に･美しい（安全で堅牢）商品を作る技術を身につける。 ・子どもの笑顔をイメージして、準備する力を養う。 ・協働意識や自己肯定感を高める。	・発泡スチロールの特性を活かし、立体的な人形の制作方法を学ぶ ・子どものとって人形や怖いもの（鬼）の意味を考える ・幼稚園3日間実習（1月）や保育所実習（2月）で、使用する	・表現媒体としてのパネルシアターの特徴を学ぶ ・絵人形の制作方法や仕掛けについて理解する ・幼稚園3日間実習（1月）や保育所実習（2月）で、使用する	・自然の造形物に対する関心を高める ・採集方法や保管方法を学ぶ ・形状や大きさなどを活かし組み合わせを工夫して作品を作る	・紙芝居の特徴を確認する 。子どもに分かり易い話・構成を研究する ・コーラージュの技法を活かし、遠くからでもはっきりと見える画面を作る ・保育所実習（2月）で、使用する	・体験したことや学んだこと（知識や技術）を、確実に身につける ・絵や写真を活かして、分かり易くまとめる力を養う ・絵本に関心を持つ（造形活動との関連を考える）
必要な材料・用具		各グループで必要な材料・用具	カッターナイフ・フェルト（20×20㎝2枚）・布（60×80㎝程度）・アクリラガッシュ・はさみ・裁縫道具・毛糸	アクリラガッシュ・油性マジック・はさみ・カッターナイフ・キルティング（70×100㎝）・木工用ボンド（速乾性）	木の実・木の葉・小枝・木工用ボンド（速乾性）	スティック糊・はさみ	スケッチブック・色鉛筆・はさみ・糊
評価の割合		20%	20%	15%	5%	15%	25%
	夏休み	課題（商品）制作					課題（商品）制作方法
1	9月23日（月）	商品制作、課題作品撮影			採集・保管方法説明		商品制作方法（材料の特徴）
2	9月30日（月）	商品制作					
3	10月7日（月）	商品制作					
	10月12日（土）	＜自主的な活動＞ 事前に申し込みが必要					
4	10月14日（月）	商品制作					
	10月18日（金）	店舗制作					店舗の制作方法 飾り付けの工夫 （予想される子どもの動線）
5	10月19日（土）	店舗制作、商品・店舗撮影			※休みを利用して、木の実（3種類以上）・木の葉（5種類以上）の採集		
6	10月20日（日）	大会・片付け					子ども（保護者）の反応 大会を通して学んだこと
7	10月21日（月）	振り返り（写真の整理）	説明（制作目的）デザイン	説明（特色・絵人形の制作方法）			お店屋振り返り パネルシアターの特徴
8	10月28日（月）		発泡スチロールを削る	着色			発泡スチロールの特徴
9	11月4日（月）		奉書紙を貼る	着色			棒人形・パネルシアター絵人形の制作方法
10	11月11日（月）		着色する	着色			
11	11月18日（月）		ニス塗り、手・服の制作	応用舞台			
12	11月25日（月）		組み立て・植毛➡撮影	仕掛け・切断、撮影			絵人形の仕掛け キャラクター設定
13	12月2日（月）		※「言葉の指導法」で使用方法（保育への活かし方や表現の仕方）について学ぶ		表札・干支（ねずみ）の制作	説明	木の実・木の葉の特徴
14	12月9日（月）				12/2〜12/9展示（G11）	箱絵・ミニ版制作	創作紙芝居の制作方法（子どもに伝えたいテーマ）
15	12月16日（月）					制作	
16	12月23日（月）					制作	
	冬休み					制作	
17	1月20日（月）					画面完成➡撮影	パネルシアター・棒人形の実践報告（幼稚園3日間実習）
18	1月27日（月）					裏面に写真貼り付け➡言葉の授業で芝居の研究	後期のまとめ➡提出

資料８）2019年度入学生「保育内容の理解と方法・造形Ⅰ～Ⅳ」学習成果自己評価表

2019年度入学生「保育内容の理解と方法・造形Ⅰ～Ⅳ」学習成果自己評価表　　1年　№　　氏名

学習成果	目標レベル	1（1年前期終了時）	2（1年後期終了時）	3（2年前期終了時）	4（卒業時）
達成目標	段階の意味 ／ 学びの対象	保育者に必要な知識・技能、資質を理解し、基礎的なものを身につけることができる	保育者に必要な知識・技能、資質を身につけることができる	身に付けた知識・技能、資質をさらに向上させ、保育で実践することができる	身に付けた知識・技能、資質を応用・発展させ、保育に活かすことができる
作る・描く活動を通して、指や手の働きを意識することができる	毎回の授業	活動の際に手や指の動きを意識することができる	自らの手や指がどのように機能しているか理解できている	子どもの手や指の発達と造形活動との関係を理解できる	子どもの手や指の発達を促す保育ができる
造形材料の特性を知り、保育に活かすことができる	紙（新聞紙・画用紙・パンフレット・厚紙）・土粘土・木片・木の実・木の葉・アクリル絵の具・段ボール・発泡スチロール・紙コップ・廃材	様々な造形材料を無駄なく有効に使うことができる	可塑性のある素材や自然の素材、廃材など子どもの造形活動に繋がる造形材料を準備できる	子どもの興味・関心や発達段階に応じた造形材料の提供ができる	子どもの主体的な活動を引き出し、発展させる造形材料の提供ができる
道具の特性を知り、正しい扱い方の指導ができる	はさみ・糊・カッター・定規・ペンチ・ニッパ・のこぎり、千枚通し・グルーガン・木工用ボンド・段ボールカッター	道具の特性を知り、正しい扱い方ができる	正しい扱い方が指導できる	子どもの興味・関心、発達段階に応じた、適切な指導ができる	正しい使い方を子どもが主体的に身につけることができる保育を提供できる
主体性や協働性を持って行動ができる	お店屋さんごっこ大会	与えられた役割を周りの状況を見ながら適切にこなすことができる	チームの一員として、自分の役割を見つけ、主体的に行動できる	率先して多様な人と協働することができる	リーダーシップを発揮して、全体をまとめることができる
想像力や創造力、向上心や探求心がある	毎回の授業	想像力や創造力の必要性を理解できる	授業に意欲的に取り組み、想像力や創造力を養うことができる	向上心や探求心を持って授業に取り組み、想像力や創造力を豊かにすることができる	想像力や創造力、向上心や探求心があり、子どもの憧れ（目標）となる
表現媒体の特徴や作り方、活かし方を理解している	ペープサート・張り子人形・パネルシアター・棒人形・紙芝居・テーブルシアター	表現媒体の特性作り方を理解し、授業で制作した表現媒体の一部を子どもの前で実践できる	授業で制作したり、貸し出された表現媒体を自信を持って子どもの前で実践できる	授業で制作した表現媒体をアレンジしたり、組み合わせて子どもの前で実践できる	保育への活用を考え、自ら表現媒体を制作することができる
目的やねらいを理解して主体的に活動に取り組み、かつ振り返り課題や改善点を見つけ、保育実践に繋げることができる	毎回の授業（スケッチブックへのまとめ）	目的やねらいを理解し、活動に取り組むことができる	活動の目的や内容、活動を通して学んだことや課題が記録できる	他の人の作品や活動から学んだことを含め、写真や図を工夫して分かり易く記録することができる	保育者の視点に立って、どのように保育に活かすか、自ら調べたことを含め記録することができる
早く丁寧に美しく制作することができる	毎回の授業	思いを込めて丁寧に制作することができる	目的や用途を理解して、材料・用具を準備し、早く丁寧、美しく制作することができる	自ら目的や用途に応じた制作を考え、直ぐに制作に取り組むことができる	子どもがイメージを膨らませ、最後まで丁寧に制作に取り組むことができる保育（環境構成や導入）を実践できる
子どもを惹きつけ、子どもの想像力（活動をイメージする力・先を見通せる力）や意欲を引き出すことができる	プラスα（表現媒体・お店屋さんごっこ大会）	子どもを引きつける表情や話し方ができる	子どもを惹きつける表現媒体を使った演技力や保育技術力（話術や手遊びなど）がある	子どもが想像力を働かせ、意欲的に活動に取り組もうとする環境を作り、子どもを惹きつけることができる	子どもを惹きつけ、意欲を引き出す魅力的な保育環境（ワクワク・ドキドキ・イキイキ）を提供できる
保育実践力（造形に関する） 子ども一人ひとりがワクワク・ドキドキ・イキイキする保育を行う力 （子ども主体の保育を実践することができる）	プラスα（お店屋さんごっこ大会）	必要な知識や技術を身に付けることができる 保育実践の意義を理解し、積極的に保育実践に取り組むことができる	身に付けた知識や技能、制作したものを活かして、保育実践に取り組み、子どもや保育者から学ぶことができる	自ら保育実践に取り組み、失敗をしてもそれを糧として、新たな保育実践に挑戦することができる	○子どもの発達段階や経験、興味や関心を理解し、身に付けた知識や技能、制作した物、材料・用具や環境を活かすことができる ○子どもがワクワク・ドキドキ・イキイキしている姿をイメージして、子ども主体の保育を計画（ねらいを定め）し、手間暇を惜しまず準備することができる ○子どものワクワク・ドキドキ・イキイキを引き出す保育を展開することができる ○子どもがワクワク・ドキドキ・イキイキする保育であったか、振り返り評価して、次の保育に活かすことができる

資料９）2019年度「保育内容の理解と方法・造形Ⅰ」チェック表

2019年度 保育内容の理解と方法･造形Ⅰチェック表　A･B･C･D　№　　氏名

	自己紹介･紹介（マーカー全色を使う意味）		**【写真】自己ＰＲポスター**
	紙芝居の絵をＳＢの表紙に模写する意味		選んだ紙芝居のタイトル･内容、選んだ理由
	紙芝居の特徴（絵本との違い）		**【写真】スケッチブック表紙**
	保育内容の理解と方法･造形Ⅰの授業目的		色や形の持つ心理効果
	手･指を使う意味		造形活動を体験する意味
	活動の意味や目的を明確にする意味		授業のまとめ（活動の振り返り）の意味
	道具の役割（道具の正しい使い方を身につける意味）		材料の保管･再利用･捨て方（捨てていたものから価値を見出す）
	はさみの特性･使い方（幼児にとってはさみが使えることの意味）		でんぷん糊･スティック糊･合成糊の特性･使い方
	木工用ボンドの特性･使い方		セロハンテープ特性･使い方
	クラフトテープの特性･使い方		ホチキスの特性･使い方
	アクリル絵の具の特性と使い方		千枚通しの特性･使い方
	両面テープ特性･使い方		金槌の特性･使い方
	カッターナイフ（カッティングマット）の特性･使い方		ニッパ･ペンチの特性･使い方
	定規の特性･使い方		グルーガン（ホットボンド）の特性･使い方
	折り紙の特徴･使い方		厚紙･段ボールの特徴･使い方
	パンフレットの特徴･使い方		新聞紙の特徴･使い方（大きさ、厚さ、紙の目、吸水･保温性）
	カタログ紙の特徴･使い方		発泡スチロールの特徴を使い方
	画用紙の特徴･使い方		牛乳パックの特徴･使い方（大きさ、素材、用途）
	奉書紙の特徴･使い方		紙コップの特徴･使い方
	廃材の特徴･使い方		***様々な材料･用具を使った造形活動を通して学んだこと***
	紙の可塑性（可塑性の造形素材としても重要性）		折り紙の造形的価値
	切り紙の造形的価値		折り紙（兜･金魚･ポロシャツ･箱･コップ）
	折り切り紙（シンメトリー）		折り切り紙（5角形･6角形･8角形）
	紙の種類と規格（厚さ･大きさ）		紙帯でつくる（顔･魚･花･虫）
	手（指）の使い方･役割（破る･つまむ･丸める･道具を使う）		***折り紙･切り紙を通して学んだこと（目的）***
	身体メジャー（指間の幅、手を広げた幅、股下･へそまでの高さ）		**お話千切り紙の展開（2作品）**
	新聞紙を使った造形活動①（破る･千切る）		新聞紙を使った造形活動②（10の音を出す）
	新聞紙を使った造形活動③（メビウスの輪･丸めて切る･折って切る）		新聞紙を使った造形活動④（お話Tシャツ）
	新聞紙の可塑性を活かした造形活動①（包む･踏ず）		新聞紙の可塑性を活かした造形活動②（立体表現：やさい･動物）
	手（指）の使い方･役割（破る･つまむ･丸める･道具を使う）		***新聞紙を使った造形活動を通して学んだこと（目的）***
	張り子人形を制作する意味（丸いもの･可愛いもの）		キャラクター設定（設定する意味）
	張り子の技法（手や指を使った活動）		張り子人形・起き上がり小法師の作り方
	張り子人形の制作から学んだこと（目的）		***張り子人形の保育実践（保育所2日間実習）から学んだこと***
	人形の動かし方･使い方		**【写真】張り子人形・起き上がり小法師**
	ペープサートの特徴･作り方（自己紹介用）		クイズペープサート（シルエット･色･回転）
	ペープサート舞台の作り方･使い方		***ペープサートの制作から学んだこと（目的）***
	ペープサートの保育実践（保育所2日間実習）から学んだこと		**【写真】ペープサート**
	木片の特徴		木片の形を活かした造形活動（並べる･立てる･重ねる･積む➡構成する）
	【写真】木片で作ったお匿の絵		***木片を使った造形活動から学んだこと（イメージを共有する意味）***
	紙コップの特徴を生かした玩具		紙コップの特徴を生かしたテーブルシアター（見立て遊び）
	レインスティックの作り方		廃材の色や形を活かした造形活動（構成遊び）
	【写真】廃材で作った「怪獣たちのいるところ」		***紙コップ･廃材を使った造形活動から学んだこと（総括の意味）***
	牛乳パックを使った玩具制作①（円盤･独楽･帽子･蛇）		牛乳パックを使った玩具制作②（パクパク人形･ワニ･スコップ･車）
	牛乳パックを使った造形活動を通して学んだこと（目的）		**【写真】牛乳パックの玩具（お散歩動物）**
	お店屋さんごっこ大会への理解		夏休みの課題の理解
	スケッチブック（詳しく･見易く･ポイントが分かる工夫）		***1年前期を通して学んだこと、成長したこと***

資料10）2019年度「保育内容の理解と方法・造形Ⅱ」チェック表

2019（R1)年度後期　「保育内容の理解と方法・造形Ⅱ」チェック表

A・B・C・D　№　　氏名

	【夏休みの課題】		【木の実・木の葉】
☐	泥団子	☐	木の葉・木の実の特徴・造形の価値
☐	お弁当	☐	どんぐりの種類、採集・保管方法【プリント】
☐	レジスター	☐	木の実・木の葉を使った制作
☐	ブーケ	☐	活動（採集～制作）を通して学んだこと
☐	パフェ		【絵本】
☐	新聞紙のカバン	☐	9/23「ともだちや」
☐	商品試作	☐	9/30「ゴリラのばんやさん」
	【お店屋さんごっこ】	☐	10/7「もりのせんたくやさん」
☐	お店屋ごっこ大会を開催する意味・目的	☐	10/14「どんぐりむらのぼうしやさん」
☐	商品制作方法（材料の活かし方）	☐	10/21「島ひきおに」
☐	使用した材料リスト（特性・形状・材質・加工方法・入手方法）	☐	10/28「まゆとおに」
☐	お店の作り方（飾りつけの工夫）	☐	11/4「だごだご　ころころ」
☐	商品・お店の制作を通して学んだこと	☐	11/11「こぶとりじいさん」
☐	他のグループの商品・お店から学んだこと	☐	11/18「とりかえっこ」
☐	段ボールの特性【プリント】	☐	11/25「さつまのおいも」
☐	子ども（保護者）の反応（予想していたものとの違いを含む）	☐	12/2「はっぱ」
☐	チェック表【スケッチブックに貼り付け】	☐	12/9「おなべさん」
☐	お店屋さんごっこ大会を通して学んだこと	☐	12/16「ふゆめがっしょうだん」
	【棒人形】	☐	12/23「サンタクロースってほんとうにいるの」
☐	発泡スチロールを使って棒人形（鬼）を制作する意味・目的	☐	1/20「フレデリック」
☐	完成予想図（頭の部分と全体）	☐	1/27「はなをくんくん」
☐	発泡スチロールの特性（加工方法を含む）【プリント】		【写真】
☐	棒人形の制作方法	☐	お弁当
☐	キャラクター設定（名前・年齢・性別・特技・苦手なものなど）	☐	レジスター
☐	棒人形制作を通して感じたこと・学んだこと	☐	ブーケ
☐	幼稚園３日間実習での実践から学んだこと・課題	☐	パフェ
	【パネルシアター】	☐	新聞紙のカバン
☐	パネルシアターを制作する意味・目的	☐	商品（試作）
☐	パネルシアターの特徴（材料）	☐	商品制作風景（２～３枚）
☐	絵人形の制作方法	☐	お店【グループ集合】
☐	仕掛けの作り方・演じ方	☐	大会風景（２～３枚）
☐	応用舞台・ハンドパネルの制作方法と使い方	☐	棒人形制作風景（２～３枚）
☐	「ぴっくりおいも」の演じ方・見せ場	☐	完成棒人形
☐	「はらぺこきょうりゅう　ぺこぺこくん」の演じ方・見せ場	☐	完成ＰＳ絵人形「ぴっくりおいも」
☐	「ひよこちゃん　こんなになっちゃった」の演じ方・見せ場	☐	完成ＰＳ絵人形「はらぺこきょうりゅう　ぺこぺこくん」
☐	「せんせいとおともだち」の演じ方・見せ場	☐	完成ＰＳ絵人形「ひよこちゃん　こんなになっちゃった」
☐	幼稚園３日間実習での実践から学んだこと・課題	☐	完成ＰＳ絵人形「せんせいとおともだち」
	【創作紙芝居】	☐	完成創作紙芝居
☐	創作紙芝居を制作する意味・目的	☐	木片・木の実・木の葉を使ったネームプレート・干支（ねずみ）
☐	おおまかな内容（起承転結）		【まとめ】
☐	画面構成の工夫【箱絵】	☐	１年間の振り返り（感想）、2年の課題と目標
☐	紙芝居の創作を通して感じたこと・学んだこと	☐	自己評価表【スケッチブックに貼らずに、はさんで提出】

3．方法

造形教育の取り組みの成果を、アンケート①～⑥や授業の振り返り（スケッチブックへのまとめ）、感想などから考察する。

①2019年度「保育表現技術・造形Ⅲ」授業終了時アンケート
・対象：授業履修生90名
・実施時期：2019年７月24日
・方法：アンケート用紙による無記名回答

②『保育表現技術・造形』の授業成果確認アンケート
・対象：2018年度卒業生99名
・実施時期：2019年９月発送、10月末回収
・方法：アンケート用紙の郵送による無記名回答

③2019年度「保育表現技術・造形」学習成果自己評価
・対象：「保育表現技術・造形Ⅳ」履修生54名
・実施時期：2020年１月28日
・方法：学習成果自己評価表による記名回答

④2019年度「保育内容の理解と方法・造形」学習成果自己評価
・対象：「保育内容の理解と方法・造形Ⅱ」履修生80名
・実施時期：2020年１月27日
・方法：学習成果自己評価表による記名回答

⑤志向・用語理解度調査
・対象：「保育内容の理解と方法・造形Ⅱ」履修生80名
・実施時期：2020年１月27日
・方法：アンケート用紙による無記名回答

⑥取り組み・器用さに関するアンケート
・対象：「保育内容の理解と方法・造形Ⅱ」履修生80名＋「保育表現技術・造形Ⅳ」履修生54名
・実施時期：2020年１月20・28日
・方法：アンケート用紙による無記名回答

4．2018年度入学生の取り組み

入学生の資質・能力の差は大きく、例えば、話が聞けない学生や説明のポイントがつかめない（全て覚えようとして、許容量を超えたら聞く気力がなくなる）学生、自分は不器用だと決めつけている学生、仕方なくやる（やりたくない・面倒くさいという態度）の学生など、マイナス因子を持った学生の割合が多いという印象であった。

また、材料や用具を準備できない（お膳立てをしてくれるのが当たり前になっている）学生や失敗したら捨てて、新しい材料を取ろうとする学生も少なくなかった。

折り紙やはさみを使った活動の様子から、手を使った造形活動の経験不足が、要因であると推察された。

一つでも多くの材料・用具の経験を持たせ、面白さを発見すること。一つひとつの活動の意味や目的を明確にし、雑な取り組みにならないようにすること。写真を使った記録を取らせ、活動の振り返りを行うこと。そして、子どもの笑顔をイメージすることを求めた。［表１、写真１～32参照］また、安易に物を捨てないことや見立てる力が大切なことを、意識して伝えた。

「先生が言ってることが分からん」とか、作り方を実際にやって見せると「動画を撮ってもいいですか」とメモを取ろうとしない学生、説明をした直後に説明した内容を尋ねる学生などが、後を絶たなかった。

しかし、実習やイベントを経験する度に、成長していく姿が見られた。特に、遊びの広場[10]では、初めは見通しが持てずに、無駄な活動をしている学生や、やる気のスイッチが入らず、バイトなどを優先する学生がおり、険悪な雰囲気になったグループもあった。開催日が近づき、形が見えてからは、先が見通せるようになり、一気に作り上げていった。当日の運営においても主体的で協働性に富んだものであった。

２年間の授業を通して、保育実践力（造形に関する）が付いたか尋ねた（授業終了時〈2020年１月28日〉に、アンケート用紙による無記名回答、対象者54名中52名が回答）ところ、「とても付いた」が27名（51.92％）、「付いた」が23名（42.23％）、「少し付いた」が、２名（3.85％）であった。40％の学生が、２年後期の授業を履修していないため、2018年度入学生全体の評価は大幅に下がると思われるが、一定の成果は得られと言える。

表１）2018年度入学生「保育表現技術・造形」一覧表

開講期	必修･選択	履修率	授業テーマ	達成目標	授業の概要	授業記録	教員の役割
1年前期	幼稚園免許選択 保育士資格必修	100%	○造形表現活動に必要な基本的・基礎的知識や技術を実践的に習得する。	1．　子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識や技術を習得する。 2．造形素材としての紙の特性や扱い方（関連する材料・用具を含む）を習得する。 3．　色や形を活かした表現媒体の制作を通して、特徴や制作方法を理解し、実践を通して表現力や活用技術を習得する。 4．　学んだことを記録し、知識や技術の定着を図ると共に、振り返る意味を理解し、分かり易くまとめることができる。	○子どもの発達、特に手の発達について、可塑性の高い紙や土粘土を使った造形表現活動を通して考える。また、同時に基本的な材料・用具の特性や使い方について学ぶ。 ○ものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験を通して、造形表現活動の面白さに気付き、保育環境の重要性を学ぶ。 ○表現媒体（ペープサートや張り子人形）の制作を行い、保育現場での実習（保育所2日間見学[6月中旬]・課題実習〈幼稚園・保育者各2日間〉[8・9月]）で使用する。 ※制作した表現媒体の演じ方、活かし方については[保育表現技術・言葉]で学ぶ。 ○牛乳パックや紙コップを使ったおもちゃを制作する。	○経験したことや気づいたことを分かりやすく記録する技術を身に付ける ○記録する意味を考えさせる 【写真1～11】	○素材・教材（環境）の提供 ○手を動かし、体験を通して基礎的・基本的な技術を修得する機会を作る ○造形の楽しさを伝える ○概念（不器用・苦手・下手）の払拭する ○内部の教員間の連携を図る
1年後期	幼稚園免許選択 保育士資格選択	100%	○様々な造形素材・表現媒体についての専門的知識と技術を習得する。 ○コミュニケーション能力を養う。	1．　子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識や技術を習得する。 2．様々な造形素材の特性や扱い方（関連する材料・用具を含む）を習得する。 3．　協働意識やお買い物ごっこ遊びを展開する力（対象の子どもを理解する力やコミュニケーション力を含む）を習得する。 4．　表現媒体の制作を通して、特徴や制作方法を理解し、実践を通して表現力や活用技術を習得する。 5．　学んだことを記録（振り返り）を通して、活動の意味を確認するとともに、保育者の視点から評価し、次の活動に活かすことができる。	○子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊び（ごっこ遊び）を題材として取り上げる。 ○地域の子どもを対象とした『お店屋さんごっこ大会[10月下旬]』を通して、様々な造形素材の特徴や活用方法、そして子どもの発達（興味や関心）について学ぶと共に、コミュニケーション能力を養う。 ○実習幼稚園3日間実習[1月中旬]・保育実習Ⅰ〈保育所10日間〉[2月中下旬]で使用することを目的とした表現媒体（パネルシアター・棒人形[鬼]）の制作を通して、子どもの表現活動を引き出す教材の活用方法について学ぶ。 ※制作した表現媒体の演じ方、活かし方については[言葉の指導法]で学ぶ。 ○木の実や木の葉、木片を使った造形活動を体験する。	○学びの定着を図る ○活動の目的や意味を考える ○子どもの反応をふまえ、制作したものや提供の仕方を評価するとともに改善点を明確にする 【写真12～20】	○機会（場）の提供 ○グループ活動に支援 ○学生の主体性や向上心を引き出す ○認める・見守る・気づかせる ○内部の教員間の連携を図る ○外部との交渉 ○全体のコーディネート（調整）
2年前期	保育士資格選択	100%	○様々な造形要素について学び、構成力や創造性を高める。 ○子どもの発達段階、興味・関心を踏まえた工夫や利用方法を学ぶ。 ○制作したものを実習やイベントで実践し、学習内容を確認する。	1．材料・用具を適切に扱い制作ができる。 2．子どもの発達段階を想定した工夫ができる。 3．コミュニケーション力を向上させ、他者との適切な意思疎通が図れる。 4．子どもの興味・関心を考えた表現媒体を制作する力が身につく。	○これまでの授業や実習での経験を踏まえ、材料・用具を適切に扱いながら、地域の子どもを対象とした『遊びの広場[5月中旬]』を企画・運営する。遊びや制作のコーナーを作り、実際に地域の幼児を招き対応を学ぶ。 ○子ども対象の表現媒体（創作紙芝居・パネルシアター）を制作し、教育実習〈前半2週間〉[6月中下旬]・保育実習Ⅱ〈保育所10日間〉[8・9月]で演じ表現力を高める。	○保育者の視点に立って、記録・評価する ○保育におけるドキュメンテーションについて考える 【写真21～26】	○機会（場）の提供 ○グループワークの支援 ○外部との交渉 ○個々の学生への支援（学生の持ち味を引き出し伸ばす/苦手な部分の克服）
2年後期	保育士資格選択	60%	○乳幼児の視点から保育環境を考える。 ○保育実践力を磨く。	1．材料・用具を適切に使用し、遊具・玩具の制作ができる。 2．子どもの目線に立ち、遊具や保育環境物を制作することができる。 3．　造形物の形を活かした制作を通して、造形活動の面白さや子どもの表現活動への活かし方など、実践的な視点が身につく。	○子どもの遊びの発展を考えた段ボールハウスを制作し、地域の子どもを対象とした『お店屋さんごっこ大会[10月中旬]』に、出品して評価を受ける。 ○保育環境としての万年カレンダーを制作する。 ○不定形木片や木の実・木の葉を使った制作（クリスマスリース・干支の置物）する。 ○卒業後（保育現場への就職）を見越し、保育雑誌を参考にした自主的な制作（玩具・誕生日表・パネルシアター）を行う。	○自分の取り組みを評価し、次の行動に活かす ○保育者としての自覚を形成する 【写真27～32】	○情報の提供 ○技術の伝承 ○機会（場）の提供

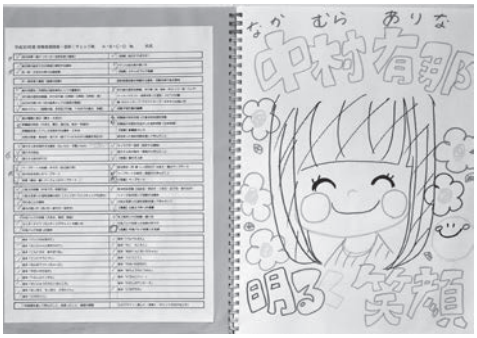

写真１）１年前期チェック表・自己PRポスター

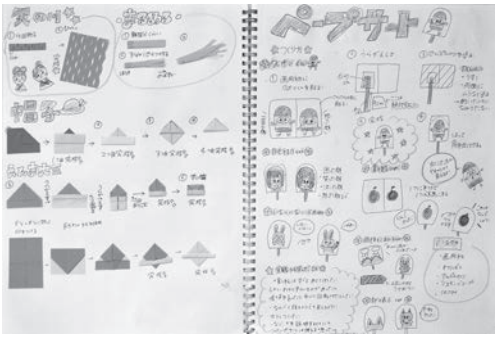

写真５）ペープサート

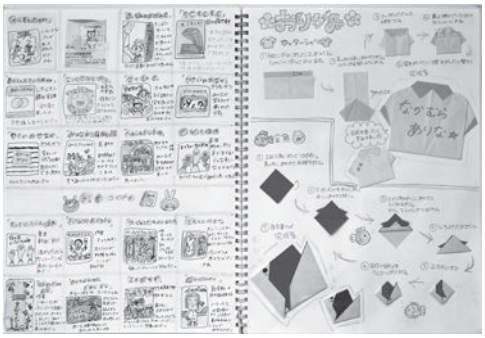

写真２）１年前期絵本・折り紙

写真６）張り子人形

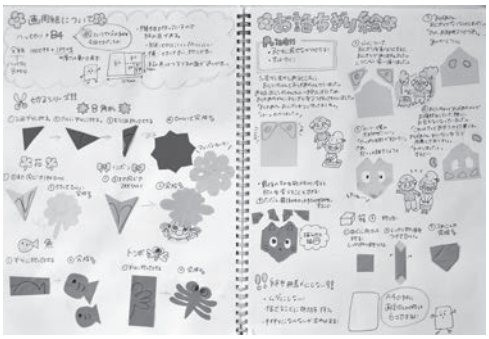

写真３）折り切り紙・お話千切り絵

写真７）土粘土・怪獣

写真４）身体メジャー・新聞紙

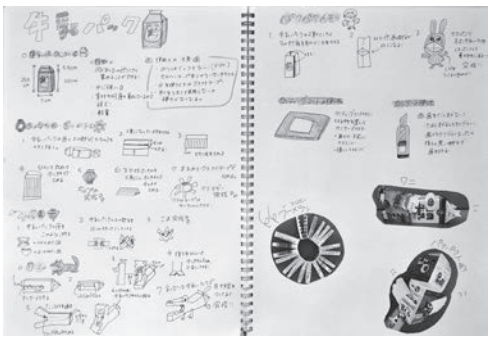

写真８）牛乳パックを使ったおもちゃ①

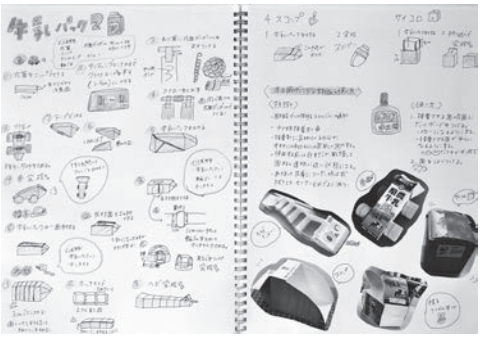

写真９）牛乳パックを使ったおもちゃ②

写真10）ペーパーサート・材料・用具一覧

写真11）木片を使った造形遊び

写真12）夏休みの課題：お店屋商品（レジ）

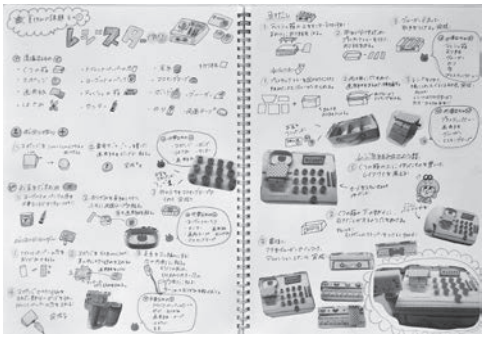

写真13）夏休みの課題：お店屋商品（お弁当）

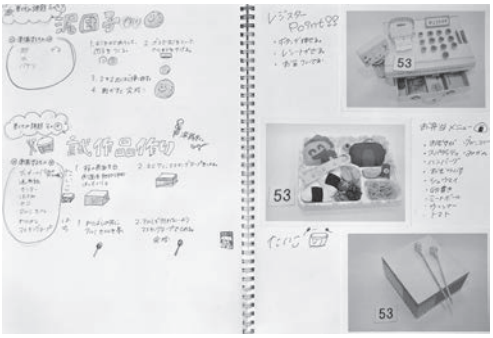

写真14）夏休みの課題：泥団子

写真15）お店屋さんごっこ①

写真16）お店屋さんごっこ②

写真17）棒人形「鬼」

写真18）パネルシアター

写真19）木の実・木の葉

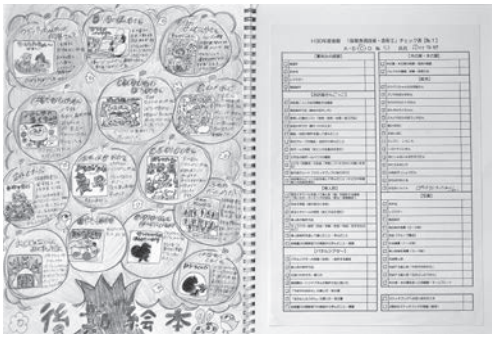

写真20）１年後期の絵本・チェック表

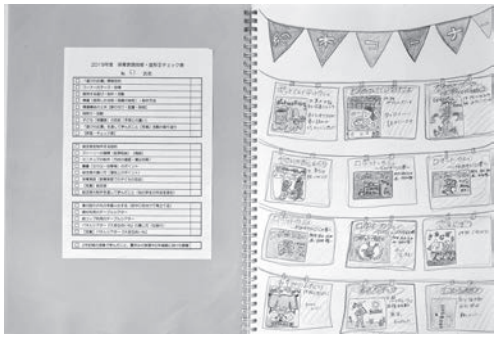

写真21）２年前期のチェック表・絵本

写真22）遊びの広場①

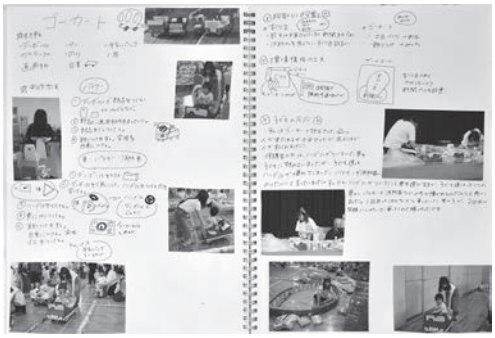

写真23）遊びの広場②

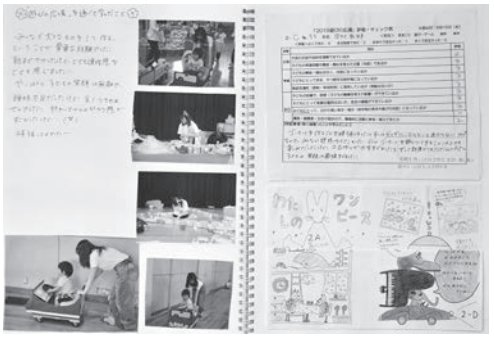

写真24）遊びの広場③

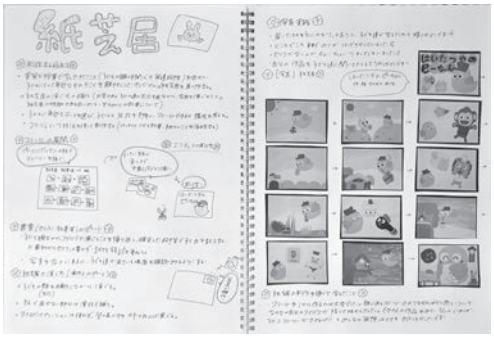

写真25）創作紙芝居

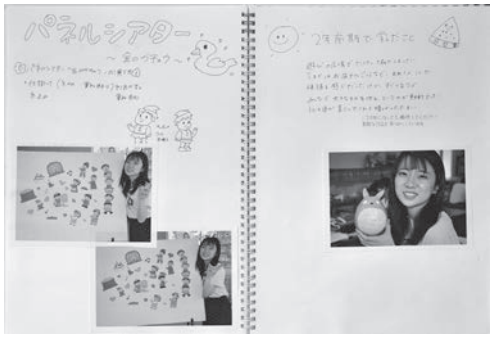

写真26）パネルシアター・起き上がり小法師

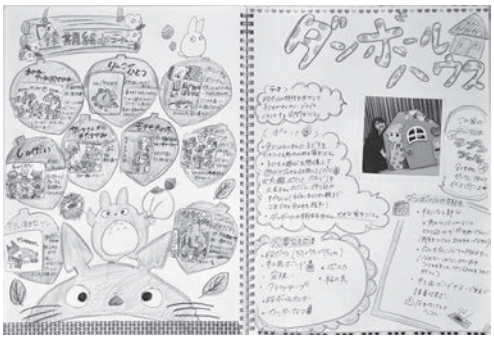

写真27）２年後期の絵本・段ボールハウス①

写真28）段ボールハウス②

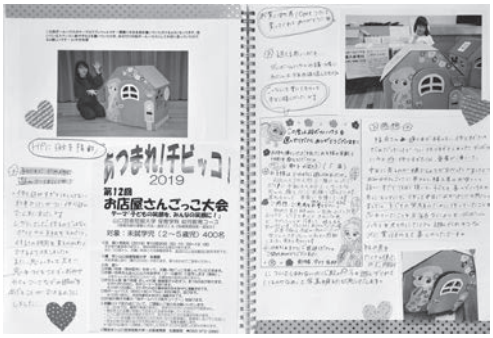

写真29）段ボールハウス③

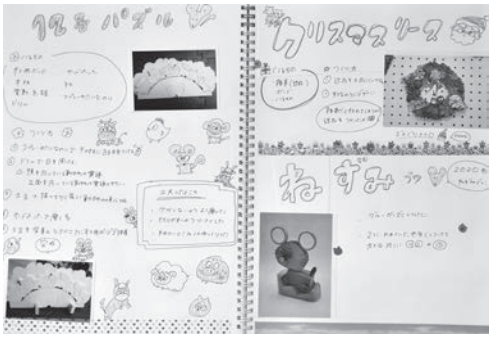

写真30）12支パズル・自然物を使った制作

写真31）万年カレンダー

写真32）自主制作・授業の感想

５．授業間連携、および実習との連携

１年後期に開講している造形Ⅱの授業では、１月中旬に実施する幼稚園３日間実習で実践することを目的に、パネルシアターや棒人形などの表現媒体を制作している。しかし、実践してくる学生は、半分程度しかいなかった。実践しなかった理由としては、「演じる自信がなかった」「どのように演じればいいのか分からなかった」が多かった。

造形の授業では、制作することだけで演じ方の指導まで行う時間的余裕がなかった。そこで、2017年度から、言葉の領域を担当する教員と連携を図り、実習前に「言葉の指導法」の授業の中で、使い方や演じ方の指導を行っていただき、実習に行かせた。実践してくる学生の割合は、70％を超えたが、「やらせてくださいと言えなかった」「実践するように言われるのを待っていたが、何も言われなかった」と消極的な学生がいた。また「やらせてほしいと頼んだが、断られた」「時間を少ししかもらえなかった」「バスを待つ時間にやってと言われ、先生のいないところでやった」など、学生の積極性はあるが、実習園側の受け入れ態勢が整っていないケースがあることも分かった。

2019年度は、実習担当教員と連携を図り、実習指導の中で学生や引率教員に対し、実習依頼内容の一つとして表現媒体の実践があることを確認していただいた。結果として、85％以上の学生が実践をさせていただき、なおかつ、パネルシアターと棒人形の両方をさせていただいた学生の割合も大きく上昇した、中には、創作紙芝居まで演じさせていただき、指導を受けてきた学生もいる。

子どもたちの反応を受け、制作してきた大変さが満足感に変わり、次の実習（２月の保育実習Ⅰ〈保育所10日間〉）への課題発見（意欲）につながっている。次の学生感想にように、指導を受けてきたことで、大きく意識が変わる学生も多い。

〈１年学生Ａ〉～幼稚園３日間実習において、棒人形（鬼）を実践してみて～

担任の先生に、「この鬼を使って、何を子どもたちに伝えたいのか」と問われ、その時は何も答えることが出来なかった。２日間考えて、「節分を知ってもらい自分の心の中の鬼を追い払ってほしいな」という考えになった。

上手くいったかはあまり自信ないけど、担任の力を借り、ある子どもは「ゴリゴリ鬼がいる」や「泣き虫鬼がいる」と言った声が聞こえ、一人ひとりが自分と向き合っている姿が見られた。自分の伝えたい気持ちが少しでも伝わった様子が見られ、とても嬉しい気持ちになった。そのきっかけをくれた担任の先生にも感謝したい。

しかし、12の実習園中、２園では実践を断られている。また、１園では、学生の側が申し出ないまま、実習を終えてしまっていた。実習園との連携をさらに進めていく必要がある。

６．実習以外の子ども向けイベントの開催

実習は、ある程度お膳立てがなされたものであり、特定の子どもや利用者を対象としている。また、実習指導者がいて、評価もされる。一方、大学独自のイベントは、企画や運営は、大学で決めることができる。また、不特定多数の子ども（保護者）を対象とすることができる。

評価は、学生自身が子どもや保護者との対応の中で行う。客観性はないが、子どもの反応や表情は偽りがなく、学生は厳しい自己評価をする。その自己評価は、課題になると同時に、意欲に繋がる。準備の段階で、子どものことを考え、真摯に取り組んだ学生ほどその傾向は強い。逆に、いい加減な取り組みをした学生は、自己評価も甘く、課題発見に結びつかない上、意欲の啓発にもならない。次第に後者の割合が増えてきている。

自分で考え、行動し、評価し、課題を見付けるという、PDCAサイクルを学生に、体験を通して身に付けさせるためには、授業や実習以外のイベントが必要になる。

グループ活動の機会を設けることも、保育者として重要な協働の意識を向上させるという大きな意味を持つ。共通の目標を持ち、役割を見付け、互いを気遣いながら活動し、困難を乗り越えて成果や感動を分かち合うという機会となる。

一人でも自分勝手な学生がいると、グループの中で険悪なムードが立ち込める。教員は、リーダーにさりげなく寄り添いつつ、自分勝手な学生がそのムードに気付き、改めていくようにしていくことが求められる。多くのリーダーは、自分勝手な学生に意見することができず、その学生の分まで抱え込んでしまう傾向がある。一方、自分勝手な学生は、先が見通せなかったり、役割が理解できていないことが多く、きっかけを求めていることが多い。

〈１年学生Ｂ〉～お店屋さんごっこを終えて～

最初は、準備するものや作るものも沢山あり、当日に間に合うのか、このおもちゃで本当に子どもたちが遊んでくれるのか不安でいっぱいだった。なんとか完成することができ、当日多くの子どもたちや保護者の方が来てくださいました。

自分たちの作ったおもちゃをうれしそうに選んで、「ありがとう」と言われた時は、とってもうれしかったし、遊んでいる姿を見ると、さらに達成感を感じました。

笑顔で接することで、子どもたちと保護者の方も笑顔になってくれて、とてもうれしかったです。

おもちゃを作る中で、廃材を多く使う部分がありました。一見ゴミに見えても、使えば立派な作品に仕上がり、使い方や見方はとても大切だと思いました。

〈１年学生Ｃ〉～お店屋さんごっこ大会を通して学んだこと～

頑張ったらそれだけ子どもの反応が返ってくるということ。準備の期間、本当に大変だったけれど、本番子どもたちが楽しそうにお買い物をしてくれている姿を見て、改めて子どものために制作する楽しさや造形活動が子どもにどう影響するのか知ったり、感じたりすることができて良かったと思った。また、商品を売ったり実際に子どもの身体に着けてあげたとき、もっとこうした方が良かったなど課題や改善点も見付けることができた。他のグループのものも工夫されているものがたくさんあったので参考にし、より良いものを作れるようになりたい。これからも、子どもの笑顔のために、いろんなことを頑張っていきたいと思いました！

７．アンケート結果・考察

１）2019年度「保育表現技術・造形Ⅲ」授業終了時アンケート〈回収率：88.9％（80名回答／履修生90名）〉

保育実践力を高めるのに、有効だったと思う授業内容を尋ねたところ、表２の通り、遊びの広場の評価が圧倒的に高かった。お店屋さんごっこ大会、幼稚園３日間実習や保育実習Ⅰ（保育所）を経験し、子どもの笑顔をイメージできるようになっていること。基本的な造形知識や技術、子どもを惹き付ける表現力が身に付いていること。クラスの中で人間関係ができているので、協働して活動ができるようになっていること。子どもから学ぶという姿勢と、客観的に評価ができるようになっていることなどがその理由として考えられる。学生の評価理由（自由記述）には、次のように書かれている。

「子どもたちと関わられ、コミュニケーション力がつく」

「子どもの笑顔をたくさん見ることができたから」

「グループとしての協働性や主体性が身につきました」

「子どもたちの立場を考えて活動を行うことができた」

「時間を掛けて製作したものは、達成感をすごく味わえます」

「一から自分達で作り、達成感を味わえて、子どもと関われるから」

「身近な物で大きな遊具をつくり、子どもたちの笑顔が見れた」

「子どもの動線まで考えて遊びを構成できた」

表２）2019年度「保育表現技術・造形」授業終了時アンケート①
「授業内容は、保育実践力を高める上で有効だったと思いますか」
〔2019年７月24日実施、保育表現技術・造形Ⅲ履修生80名無記名回答〕

入学年度	H30年度（R2年3月卒）	とてもそう思う	そう思う	あまり思わな	まったく思わな	わからない
保育表現技術・造形Ⅰ	紙の可塑性を利用した造形	58.75	41.25	0	0	0
	ペープサート	86.25	13.75	0	0	0
	張り子人形	60	40	0	0	0
	土粘土	56.25	42.5	1.25	0	0
	牛乳パックを使った造形	68.75	30	1.25	0	0
	絵本	75	25	0	0	0
	スケッチブックへのまとめ	68.75	31.25	0	0	0
保育表現技術・造形Ⅱ	お店屋さんごっこ大会	87.5	12.5	0	0	0
	パネルシアター	86.25	13.75	0	0	0
	棒人形（鬼）	56.25	42.5	1.25	0	0
	絵本	80	20	0	0	0
	スケッチブックへのまとめ	68.75	30	1.25	0	0
保育表現技術・造形Ⅲ	遊びの広場	92.5	7.5	0	0	0
	創作紙芝居	66.25	31.25	2.5	0	0
	物語ペープサート	68.75	31.25	0	0	0
	絵本	72.5	27.5	0	0	0
	スケッチブックへのまとめ	65	33.75	1.25	0	0

「子どもに喜んでもらえたので、良かったです」
「子どもの様子、子どもの笑顔を見ることができた」
「たくさんの子どもが制作してくれて、喜んでもらえた」
「リーダーとしての役目を果たして、子どもと楽しむことができた」
「子どもたちに楽しんでもらう工夫ができるようになったから」
「お店屋さんを生かして活動ができた」
「子どもたちの笑顔は、本当に素晴らしいと遊びの広場を通して感じることができた」

次に評価が高いのは、１年後期に実施している「お店屋さんごっこ大会」である。評価理由としては、次の通りである。

「子どもたちと触れ合える」
「グループで意見を出し合って色々な物を手作りしたから」
「子どもたちの楽しそうな笑顔を見ることができました」
「友達を協力して一つのものを作る大切さを知った」
「廃材で商品を作るのが保育現場でもできそうだと感じた」
「協力して計画的に企画を進めることの大切さがわかった」
「商品がたくさん作れてよかったです。子どもも喜んでくれました」
「子どもたちの笑顔がとってもかわいかった」
「実際に子どもと関わりながら行うことができた」
「子どもの笑顔を見て、作ることの喜びを感じることができた」
「想像力、協働性が身につけられた」
「作ったものを子どもと直接かかわることで学ぶことができた」

表現媒体では、ペープサートとパネルシアターの評価が高い、実際に実習などで実践し、手応えを感じたことで評価が高くなっていると考えられる。

張り子人形や棒人形、創作紙芝居については、少し評価が下がる。張り子人形や棒人形は、出し方がよく分からないこと、実習先の先生から指導をしてもらえなかったこと（それらを使用した経験がない保育者が増えてきたことも影響している）が要因になっている。創作紙芝居についても、実践するチャンスが少ないため、苦労した割に手応えを感じることができない状況になっている。

ペープサート【１年前期】
「年齢によって学校で作ったものを実践できたし、新しく考え作ることもできた」
「シルエットクイズは子どもたちに喜んでもらえたから」
「実習などで、子どもの笑顔をひき出すことができた」
「子どもが喜ぶ教材だから」
「実習で毎回使わせてもらっているから」
「実習でやって、子どもの受けがとてもよかったです」

張り子人形【１年前期】
「動物を作ったのはよかったのですが、なかなか活かせることはできなかった」
「実践すると、私の思っていた反応と違っていて微妙だった」
「愛着を持って利用することができた」
「張り子人形を使って、自己紹介ができた」
「大変でした」
「子どもの前で演じることができました」

パネルシアター【１年後期】
「実習で実践することができた」
「実習で実践でき、子どもたちに喜んでもらえたから」
「実習でとても役に立った」
「実習で行うことができた」
「子どもが喜んだから」

棒人形「鬼」【１年後期】
「怖くて優しい鬼は難しかった」
「その時期にしか使用できなかった」
「節分の時に使えそうだし、職についてから活かせそう」
「季節の行事を、使って子どもと楽しめた」
「節分の時に、実習で使えた」
「子どもが喜んだから」
「実践で使えた」
「節分の行事で使える」

創作紙芝居【２年前期】
「内容を考えたりセリフをつけるのが難しかった」
「演じ方が難しかった」
「アドリブは難しかった」
「自分で作る達成感を抱けた」
「自分だけの紙芝居ができた」
「読み方、めくり方の工夫点が見つかった」

スケッチブックへのまとめ【２年間を通して】

「まとめることの大切さを知り、将来上手く使いたいと思った」

「活動をまとめることで、次の保育に活かせる」

「まとめを通して授業の復習ができ、振り返りができる」

「まとめることで見えてくる改善点がありました」

「まとめるのは大変でしたが、まとめ終わった後は、やってよかったと思えたり、こんなことをしたなと見返せたので、頑張ったかいがあったと思いました」

「初めの頃は大変で、時間が掛かっていましたが、慣れてくると短時間でまとめることができた」

「スケッチブックにまとめることが大変でしたが、見返すと保育園でもやっていけることがたくさんあるし、これだけ学んできたんだという自信がもてます」

授業を通して、できるようになったことや身に付いたことを尋ねたところ、表３のような結果が出た。

【イベントや実習での実践を通して、子どもの笑顔を見ることができ、達成感や成就感を味わえた】

「作ったものを実際に子どもたちとかかわりながらできてよかった」

「子どもたちが楽しんでいる様子を見て、頑張ってよかったと思った」

「特にお店屋さんや遊びの広場で学べた」

「作ったものや学校でのイベントで、たくさんの子どもの笑顔を見れた」

「子どもの笑顔を見られてうれしかったです」

「授業で学んだことを実践することで、子どもの笑顔をひき出すことができた」

「苦手意識を持っていた造形ですが、特性を捉えたり、子どもの笑顔を見ることで達成感を持って楽しく取り組めました」

【「無理」とあきらめていたことが、できるようになった（少々のことではへこたれなくなった）】

「最後までやりとげることができた」

「１年の時よりも楽しく取り組めるようになった」

「できないと思ったことはすぐにあきらめていましたが、最後までやり遂げられるようになった」

「最初は全くついていけず、いやでしたが、できるようになって良かったです」

「少しでできるようになったから」

【仲間と一緒に協働する力が付いた（役割を見付け、積極的に役割をこなすことができる）】

「一緒に作業することで、たくさん協力できた」

「お店屋さんごっこ、遊びの広場で力が付いたと思います」

【準備や後片付けの大切さを知った】

「片付けができていないと次に人が困ることに改めて気づいた」

「実際に体験していかに重要なことかに気づけたから」

表３）2019年度「保育表現技術・造形」授業終了時アンケート②
「造形の授業を通して、できるようになったこと、身に付いたことなどがありますか」
〔2019年７月24日実施、保育表現技術・造形Ⅲ履修生80名無記名回答〕

項目	大いに当てはまる	当てはまる	どちらかというと当てはまる	当てはまらない	わからない
イベントや実習での実践を通して、子どもの笑顔を見ることができ、達成感や成就感を味わえた	78.75	21.25	0	0	0
「無理」とあきらめていたことが、できるようになった（少々のことではへこたれなくなった）	35	57.5	6.25	1.25	0
仲間と一緒に協働する力が付いた（役割を見付け、積極的に役割をこなすことができる）	65	33.75	1.25	0	0
準備や後片付けの大切さを知った	72.5	27.5	0	0	0
絵を描くこと、ものを造ることへの抵抗感がなくなった	37.5	48.75	12.5	1.25	0
体験したことを写真や絵を使って、まとめることができるようになった	48.75	45	5	1.25	0
造形材料（身の回りにあるもの）に対する意識が変わった（何かに使えないかと考えるようになった）	53.75	42.5	3.75	0	0
造形材料を無駄なく有効に使えるようになった	47.5	46.25	6.25	0	0
道具の特性を知り正しい使い方ができるようになった	45	40	2.5	0	0
子どもの姿（笑顔）をイメージして作品を作るようになった	56.25	41.25	2.5	0	0
実際に作ってみる・演じてみるなど行動力が着いた（頭で考えるよりも手で考えるようになった）	40	53.75	6.25	0	0
速く・丁寧に・美しく作品を作れるようになった	31.25	56.25	11.25	1.25	0

2）『保育表現技術・造形』の授業成果確認アンケート〈回収率：16.2%（16名回答/卒業生99名）〉

表4の通り、子どものことを意識する力や材料・用具の特徴・特性を生かす力については、大きく向上している。自己肯定感や学習意欲、手を抜かずに制作する力については、向上の余地が残る。

表4）「保育表現技術・造形」の授業成果確認アンケート①
「お店屋さんごっこ大会を通して向上したと思う資質や能力」
〔2019年9月末発送/10月末回収、2018年度卒業生99名対象/16名無記名回答〕

項目	とても向上した	向上した	少し向上した	向上していない	分からない
協働意識	56.25	43.75	0	0	0
子どものこと（行動や反応など）を意識（イメージ）する力	68.75	31.25	0	0	0
段取りを考えて準備する力	50	37.5	6.25	0	6.25
材料や用具の特徴や特性を活かす力	68.75	25	0	0	6.25
手を抜かず、速く・丁寧に・美しく制作する力	37.5	50	6.25	0	6.25
自己肯定感（自分が存在する意義、必要とされている意識）	25	56.25	12.5	0	6.25
保育者の資質·能力を、さらに高めようとする学習意欲	31.25	56.25	6.25	0	6.25

表5）「保育表現技術・造形」の授業成果確認アンケート②
「遊びの広場を通して向上したと思う資質や能力」
〔2019年9月末発送/10月末回収、2018年度卒業生99名対象/16名無記名回答〕

項目	とても向上した	向上した	少し向上した	向上していない	分からない
協働意識	87.5	12.5.0	0	0	0
子どものこと（行動や反応など）を意識（イメージ）する力	75	25	0	0	0
段取りを考えて準備する力	62.5	37.5	0	0	0
材料や用具の特徴や特性を活かす力	68.75	31.25	0	0	0
手を抜かず、速く・丁寧に・美しく制作する力	56.25	37.5	0	0	6.25
自己肯定感（自分が存在する意義、必要とされている意識）	31.25	56.25	6.25	0	6.25
保育者の資質·能力を、さらに高めようとする学習意欲	43.75	43.75	6.25	0	6.25

表6）「保育表現技術・造形」の授業成果確認アンケート③
「実習やイベントに向けた授業（制作物）は、保育実践力を高める上で、有効だったと思いますか」
〔2019年9月末発送/10月末回収、2018年度卒業生99名対象/16名無記名回答〕

対象の実習・イベント	授業（制作物）	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	まったく思わない	わからない
保育所2日間実習（1年6月）課題実習（1年8・9月）	ペープサート	75	18.75	0	0	6.25
	張り子人形	31.25	56.25	6.25	0	0
お店屋さんごっこ大会（1年10月）	商品	75	25	0	0	0
幼稚園3日間実習（1年1月）保育所実習(1年2月)	パネルシアター	75	25	0	0	0
	棒人形（鬼）	43.75	43.75	6.25	0	6.25
遊びの広場(2年5月)	コーナー	68.75	25	6.25	0	0
幼稚園実習(2年6月)保育所実習(2年8・9月)	創作紙芝居	37.5	75	0	6.25	12.5
お店屋さんごっこ大会（2年10月）	段ボールハウス	43.75	37.5	0	0	18.75

「お店屋さんごっこ大会」での経験が、今の仕事に生かされている点があれば書いてください。

○日々の保育で製作等の準備をする際に、常に考えるのは子どもたちの反応やどのくらいのことをできるかなと行動を予測することです。そのような意識は、短大の授業、特にお店屋さんごっこで、実際に子どもたちのために準備をしてきたからこそ学べたことだと思っています。（幼稚園教諭）

○実際に現場に出て働いたときに、園内で「お店屋さんごっこ」をする機会があり、「お店屋さんごっこ大会」での廃材の利用の仕方、題材の案、看板の作り方等、とても参考になったため、学生のときに経験しておいてよかったと思った。（幼稚園教諭）

○行事やイベントなどで子どもたちのために、廃材を使ってカメラや車などのおもちゃを作ることがあります。その時にこの廃材はここに使える、これはここに使うのは不向きなど、材料に合わせたものを作れるようになってきました。（幼稚園教諭）

○このイベントの時にリーダーをやって、全くグループ内の人とコミュニケーションをとることができず納得のいく終わり方ではなかった。その経験もあり今何人かで一緒

に制作する時には、同じベクトルで、イメージしたことを共有してできるようにたくさん話し合いをするようになった。（幼稚園教諭）
○バザーで展示するお店屋さんごっこで、何屋さんにするかアイディアを出すことができた。（幼稚園教諭）
○身近のある廃材で、子どもが興味を持ってくれるあそび考えるようになった。
○商品の作り方やアレンジの仕方。（認定子ども園保育教諭）
○お店やさんごっこで、廃材利用について学んだことで、実際に現場に入って子どもの造形活動を考える時に、廃材をいかに多く利用し、楽しい物に変化させることができるや考えています。（認定子ども園保育教諭）
○子どもとごっこ遊びの延長として食べ物やおもちゃを作る際、子どもに合わせたサイズの設定、安全によりリアルに子どもが自ら選んで作ることができるような材料の用意、子どもの遊びの意欲を高めることができるような環境作りを考え、保育活動をすることができるようになりました。（認定子ども園保育教諭）
○先日、園でもお店屋さんごっこがありました。（子どもが店員、保護者が客）お店の飾りつけなど、スケッチブックを見直して参考にしました。商品は子どもが作るには難しいものが多かったので、在学中に調べてまとめておけば…と思いました。レジを作ってみたら、子どもたちは大喜びで使ってくれました。（保育所保育士）
○職員同士での連携（同じ目的に向かう意識の在り方）、手作り（おもちゃ）のものの在り方（安全面、清潔面etc）、数量や材料の準備・用具を管理すること、用具の使い方、効率よく作ること・要領をよくするコツを学んだ。（保育所保育士）
○廃材や身近な物を使って簡単にかつかわいい物を多く作れるようになった。（保育所保育士）
○自分の努力したことが、子どもの笑顔につながることを学ぶことができた。数量が必要になるイベントなのでグループのメンバーと協力し、成し遂げようとする力がついたと思う。又、より丈夫にするにはどのような材料が適しているのか、再利用できる廃材は無いかなど考えられるようになった。（保育所保育士）

表５の通り、「遊びの広場」の経験は、協働意識の向上に繋がったといえる。また、学習意欲や手を抜かず制作する力についても向上している。

「遊びの広場」での経験が、今の仕事に生かされている点があれば書いてください。

○遊びの広場で特に印象に残っているのは、予測していた子どもたちの反応や様子と実際が大きく違っていたことです。手先の発達による器用さや子どもたちの心をわくわくすることのできるような言葉掛け等を事前に理解したり、考えておくことが大切なんだと実感させられました。就職した今でもそのようなことを考えることの重要さを日々感じるとともに、相手＝子どもたちではなく、一人ひとりの子どもの表面と内面を見ていくことの大切さも感じています。（幼稚園教諭）
○子どもの目線に立って考えることが出来る点。例えば、大人であれば普通に通ることのできる道があるとすると、子どもの目線に立った時に、どう子どもには映るのか。道は広すぎないか、どんな子どもでも簡単に通ることが出来るか等、考えることができるようになった。（幼稚園教諭）
○自分だけの意見ではなく、他の人と一緒になって考え、分担して作っていくことの達成感を味わうことができた。仕事では他の先生方と一緒になって行事に取り組むことが多いので、自分の意見と先生方の意見とお互いの意見を踏まえて、子どもたちに喜んでもらえるものを作っています。（幼稚園教諭）
○手作りで作ったものが安全であるかや使いやすいか等考えるようになった。テープの種類を考えて、使いたいものを選択するようになった。（幼稚園教諭）
○作るものを決め、子どもが作る前に、自分でやってみる（試作）ようになった。（改善すべき点が分かる）（幼稚園教諭）
○子どもの年齢に合わせた遊びを考えること。子どもの目線で、遊びたいと思えるものを考えること。（認定子ども園保育教諭）
○遊びの広場で、同じ班になった人と、力を合わせて同じ目標を持ってそれぞれが意見を出し合ったり、自分の役割を見つけて活動することで、協調性やより良い物を作り出そうとする力を養うことが出来ました。そのことが現在の仕事の中でもチームの中の一員として、協働意識につながっています。（認定子ども園保育教諭）
○１つのグループの中で、絵を描く場所、はさみを使う場所とコーナー作りをしたことから保育活動の中でも、作ったおもちゃで遊ぶ場所、作ったおもちゃを修理するスペースというように、コーナー作りを考えることができるようになり、教室の中で、子どもたちの安全をより考えた保育ができようになったと感じています。（認定子ども園保育教諭）
○製作のとき、子どもに分かりやすい言葉で説明する

ことを意識するようになりました。また、子どもの使いやすい道具・材料を選ぶことも気を付けています。（保育所保育士）
○丈夫さや遊びやすさなど子どもの年齢に合わせ、ものを作ったり、用意したりできるようになった。（保育所保育士）
○準備の段階で、このようにしたら、子どもはどうするか、どこにこの道具、材料を置けば、制作・活動しやすいか等をイメージすることができた。そのことが、今の環境構成や子どもの導線を考える力に結び付いていると感じている。（保育所保育士）

「実習やイベントに向けた授業は、保育実践力を高める上で有効だったか」と尋ねたところ、表６のような結果が出た。これは、表２（２年前期授業終了時の結果）とほぼ同じであった。イベントとしては、「お店屋さんごっこ大会」や「遊びの広場」、表現媒体ではペープサートやパネルシアターが有効であることが分かった。

「保育表現技術・造形」について意見や感想を書いてください。

「何かと忙しい授業でしたが、制作物があることで、実習で経験できることが増えたり、子どもの姿をイメージする癖をつけることができたりしました。」（大学３年生）
「つくる技術だけでなく、友達と協力することや材料・道具の特性、失敗や成功の経験、達成感なども経験することができました。この授業で制作したペープサートやパネルシアター、組み木などを今後の保育に積極的に使用していきたいです。自ら大変なことに挑んでいく力が、特に身についたなと就職して半年がたった今、実感しています。」（保育所保育士）
「自分で考えたり、形にして表すことが難しかったが、できた時の達成感や自信、子どもの前で実践した後の子どもの反応、笑顔を見て、もっと自分でできることは無いかと考えるようになりました。」（保育所保育士）
「遊びの広場では、実習以外の場で子どもと接することができ、他の学生がどう子どもと関わっているかを見て勉強することができました。あの時『これが子どもには難しかった』『あの道具を用意すればよかった』という反省が、就職してからの造形活動にかなり影響していると思います。」（保育所保育士）
「授業の中で教えていただいたことが自信となって、子どもたちの表現活動を進めていく時、いろいろなことを取り入れたい！と思える原動力になっています。日々辛いこと、上手くいかないとことの方が多いですが、学んだことを糧に頑張れています。」（認定子ども園保育教諭）
「在学中はたくさんのものを作ってきました。大変だったことも多かったですが、今では実践することで子どもの笑顔に繋がっています。」（幼稚園教諭）
「スケッチブックに振り返りを書くことで、改めて実習中の自分自身、子どもたちの反応を見つめ直すことにも繋がりました。」（幼稚園教諭）
「多くの素材を授業で使用できたことで、子どもたちの表現についても深く考えるようになりました。」（幼稚園教諭）
「段ボールハウスの制作の際に、先生が『飾り付けを一つする度に、子どもの表現が一つ失われている』とお話されていました。今、実際に現場に立ってみて、その言葉の意味がさらに理解できたような気がします。子どもたちはおもちゃがなくても、そこにある物で遊びを考え、遊んでいます。また、こちらが何も言わなくても、様々な物や自然に興味をもち、自ら探求心を持って、遊びを楽しんでいます。大人が『～させよう』『～を作らせよう』としなくても子どもたちの表現というものは無限大なんだと実感させられました。そこで私に何ができるかというと、様々な素材と触れ合うチャンスをつくったり、廃材でおもちゃをひとつ作って見せるなどして、子どもたちが自分でさらに活動を広げられるお手伝いをすることだと思います。また、子どもたちから出た素直な思いや疑問にこちらも素直に寄り添い、受け止めていくことでお互い、気付けなかったことに気付いたり、成長していけるのかなと思っています。」（幼稚園教諭）

３）2019年度「保育表現技術・造形」学習成果自己評価〈対象：「保育表現技術・造形Ⅳ」履修生54名〉**2019年度「保育内容の理解と方法・造形」学習成果自己評価**〈対象：「保育内容の理解と方法・造形Ⅱ」履修生80名〉

全ての項目でレベル４（卒業時の学習成果）と自己評価した２年生は、54名中５名に過ぎなかった。特に、「主体性や協働性を持って行動ができる」については、レベル４と自己評価した学生は25％にも達していない。本来は、高等学校卒業時に身につけておくべく学力の三要素の一つである「これからの時代に社会で生きていくために必要な、『主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）』を養うこと」である。

また、多くの項目でレベル２（１年後期終了時の学習成果）と自己評価した学生が１割程度いる。「早く丁寧に美しく制作することができる」については、レベル１の段階と自己評価した学生も２名いた。２年後期の授業を履修していない40％の中には、レベル３の段階で止まっている学生も少なくないと考えられる。［表７］

１年生についても、「指や手の働きを意識することができる」以外の項目では、10％以上がレベル１（１年前期終了時の学習成果）に留まっている。特に「早く丁寧に美しく制作することができる」については約40％、「子どもを惹きつけ、子どもの想像力や意欲を引き出すことができる」「表現媒体の作り方、活かし方を理解している」については30％の学生がレベル１と自己評価している。

この結果から考察すると、まず提供する学習の機会や方法の問題点が挙げられる。多くの題材が、実習やイベントでの実践を前提としているにもかかわらず、実習担当者との連携が不十分で、実習園に対する目的や内容の説明が確実に行えていなかったことである。

自分から実践を申し出ることができず機会を与えてもらえるのを待っている学生や、実践する自信がなく背中を押してもらうのを待っている学生、あるいはできるだけ楽をしたい（やれと言われればやるが、言われなければやらない）と考える学生の割合が増えている現状を踏まえ、１年生の段階では、実践を課題とすることや実習園の側から実践への呼び水を出していただくという協力要請が必要であることが分かった。［表８］

次に、学習成果の指標（達成目標）の設定が、入学してくる学生の資質・能力に対応していないことである。入学時の資質・能力や経験値に大きな差がある現状を踏まえ、基礎・基本となる部分を、丁寧に行う必要があると言える。しかし、２年間の養成課程を考えると時間的な余裕はない。学生の学習意欲のスイッチを、早い段階で入れる工夫が必要になっている。５月に実施している幼稚園１日見学実習や６月に実施している保育所２日間見学実習を、もっと積極的に利用するとともに、２年生が５月に開催している「遊びの広場」へ、１年生を参加（2018年度入学生は５名が参加）させることや６月に実施している「保育者の魅力発見セミナー」[11] への参加（2019年度から実施している高校生向けイベントの中で、幼児向けの遊び・制作コーナーがある）を積極的に活用することが考えられる。

また、保育者不足のため、早い段階で就職が決まる学生の割合が高くなり（2019年度は、９月末の段階で６割を超える学生が保育現場への就職が

表７）2018年度「保育表現技術・造形」学習成果自己評価
〔2020年１月28日実施、保育表現技術・造形Ⅳ履修生54名記名回答〕

達成目標	作る・描く活動を通して、指や手の働きを意識することができる	造形材料の特性を知り、保育に活かすことができる	道具の特性を知り、正しい扱い方の指導ができる	主体性や協働性を持って行動ができる	想像力や創造力、向上心や探求心がある	表現媒体の特徴や作り方、活かし方を理解している	目的やねらいを理解して主体的に活動に取り組み、かつ振り返り課題や改善点を見つけ、保育実践に繋げることができる	早く丁寧に美しく制作することができる	子どもを惹きつけ、子どもの想像力（活動をイメージする力・先を見通せる力）や意欲を引き出すことができる	造形に関する保育実践力（子ども一人ひとりがワクワク・ドキドキ・イキイキする保育を行う力）がある
レベル4	48.15	37.04	48.15	24.07	35.19	48.15	53.7	55.56	51.85	51.85
レベル3	42.59	53.7	40.74	66.67	57.41	42.59	31.48	35.19	35.19	42
レベル2	9.26	9.26	11.11	9.26	7.41	9.26	14.81	5.56	12.96	59
レベル1	0	0	0	0	0	0	0	3.7	0	5.56

表８）2019年度「保育内容の理解と方法・造形」学習成果自己評価
〔2020年１月27日実施、保育内容の理解と方法・造形Ⅱ履修生80名記名回答〕

達成目標	作る・描く活動を通して、指や手の働きを意識することができる	造形材料の特性を知り、保育に活かすことができる	道具の特性を知り、正しい扱い方の指導ができる	主体性や協働性を持って行動ができる	想像力や創造力、向上心や探求心がある	表現媒体の特徴や作り方、活かし方を理解している	目的やねらいを理解して主体的に活動に取り組み、かつ振り返り課題や改善点を見つけ、保育実践に繋げることができる	早く丁寧に美しく制作することができる	子どもを惹きつけ、子どもの想像力（活動をイメージする力・先を見通せる力）や意欲を引き出すことができる	造形に関する保育実践力（子ども一人ひとりがワクワク・ドキドキ・イキイキする保育を行う力）がある
レベル4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
レベル3	0	0	0	0	1.25	1.25	2.5	0	0	12.5
レベル2	96.25	88.75	78.75	87.5	88.75	73.75	83.75	61.25	70	87.5
レベル1	3.75	11.25	21.25	12.5	10	25	13.75	38.75	30	11.25

内定している)、学習成果のレベルアップの必要性を感じない学生も少なからずいる。２年前期の段階の達成目標を引き上げておくか、２年後期の履修率を上げる工夫が必要になる。

４）志向・用語理解度調査〈回収率96.25％（80名中77名回答)〉

表９の通り、「学習成果」の意味も理解できていない学生も少なからず（９％）いる。ディプロマ・ポリシーやアセスメント・ポリシーについては、６割を超える学生が、理解できていない。非認知能力や汎用的技能は、保育者としてあるいは、学士として求められている事項にも関わらず、理解できている学生の割合いは低い。

学生の現状を把握した上で、指導をしなくては、形式だけのものになってしまいかねない。

１年生に、「高校生に戻れるとしたら、Ｙ短期大学を受験しますか」と質問したところ、表10の通り、もう一度受験すると答えたのは、回答した77名中36名に過ぎなかった。「本当は、就職したかった」という学生も少なくない。他にも、小学校の先生や看護師になりたかったけれど、受験に失敗して、仕方なく来たという学生や他の四年制大学（県外）に行きたかったけれど、経済的に諦めて来たという学生もいる。そのような学生は、Ｙ短期大学の保育者養成内容への理解が不十分なまま、入学してきていることが多い。入学した以上、簡単に進路を変更することはできない。たとえ、不本意入学だとしても、保育のやりがいや楽しさを伝え、主体的に保育者をめざせるようになって欲しい。しかし、表11の通り、１年後期の授業終了時の意識調査では、77名中、「絶対に保育者になりたい」あるいは「できればなりたい」と答えた学生は47名と６割ほどしかいない。逆に、「なりたくない」３名、「できればなりたくない」８名という状況であった。

なりたくない理由として、11名中「責任が重く大変な仕事だから」「記録や書類など書くものが多いから」各７名、「髪の色や化粧など、自由にできないから」５名、「他にやりたいことがあるから」「資格や免許を取るために、たくさんのことを学ばなくてはいけないから」「給料が安いから」各４名、「保育者に向いていないから」「造形が苦手だから」「コミュニケーションを取るのが苦手だから」各３名、「音楽が苦手だから」２名、「子どもの笑顔を見ても嬉しくないから」「学び続けていかなくてはならないから」各１名があげている。１年の間に６名の学生が、退学している現状も加味すれば、約２割の学生が、保育者への志向がない、もしくは低いという憂慮する事態となっている。

２月に実施される保育実習Ⅰ（保育所）を経験し、なりたいという割合が増えると期待したいが、これまでのように、ほぼ全員が保育者になることを前提とした保育者養成は、通用しなくなってきている。根本的な見直しを図らなくては、保育者をめざす割合はさらに下がり、目標となる学生（先輩）が減れば、さらに保育者志望の高校生は減り、

表９）志向・用語理解度調査
〔2020年１月27日実施、保育内容の理解と方法・造形Ⅱ履修生77名無記名回答〕

用　語	分かる	なんとなく分かる	よく分からない	全く分からない
学習成果（学修成果）	24.68	66.23	5.19	3.9
ルーブリック	9.09	45.45	32.47	12.99
ディプロマ・ポリシー	3.9	32.47	38.96	24.68
アセスメント・ポリシー	2.6	29.87	41.56	25.97
アドミッション・ポリシー	10.39	54.55	24.68	10.39
リテラシー	1.3	9.09	49.35	40.26
イノベーション	3.9	24.68	42.86	28.47
コンピテンシー	0	0	37.66	62.34
グローバル	42.86	50.65	6.49	0
社会情動的スキル(非認知的能力)	6.49	29.87	40.26	23.38
アクティブ・ラーニング	16.88	41.56	25.97	15.58
アイデンティティー	44.16	42.86	7.79	5.19
汎用的技能	0	10.39	49.35	40.26
ソサエティー5.0	0	3.9	38.96	57.14
ＩＣＴ	1.3	10.39	45.45	42.86
キャリア	32.47	50.65	12.99	3.9

表10）2019年度「保育内容の理解と方法・造形Ⅱ」授業終了時アンケート①
「１年前（高校３年）に戻れるとしたら、Ｙ短期大学を受験しますか」〔2020年１月27日実施、保育内容の理解と方法・造形Ⅱ履修生77名無記名回答〕

選択肢	Y短期大学を受験する	違う保育者養成校を受験する	保育者養成校は受験しない	分からない
人数（77名）	36	5	35	1

表11）2019年度「保育内容の理解と方法・造形Ⅱ」授業終了時アンケート②
「保育者になりたいですか」〔2020年１月27日実施、保育内容の理解と方法・造形Ⅱ履修生77名無記名回答〕

選択肢	絶対になりたい	できればなりたい	どちらでもいい	できればなりたくない	なりたくない	分からない
人数（77名）	23	24	12	8	3	7

負のスパイラルに陥ってしまう恐れがある。一人ひとりの学生について、入学の経緯、躓いている部分、隠れた能力などを把握し、支援していける体制と、やりがいを感じることのできる機会を増やす取り組みを整える必要がある。

5）取り組み・器用さに関するアンケート〈「保育内容の理解と方法・造形Ⅱ」履修生78名＋「保育表現技術・造形Ⅳ」履修生52名回答〉

表12の通り、すべての項目で、1年生より、2年生の方が、評価が上がっている。経験を積むことが効果をあげているといえる。しかし、1年生の5割以上、2年生の約4割が、手先が器用だとは考えていない。

手作業の機会を増やす教材・題材の検討が必要である。

質問「造形の授業への学習意欲について」、1年生に「あまり高くない」「低い」と答えた学生が1割以上いる。その理由としては、「造形に苦手意識が強い（上手くできない）から」8名、「速度が速すぎて、ついていけないから」7名、「保育者になる気がないから」「『子どもの笑顔をイメージして』と言われて、イメージできないから」「材料や用具を揃えられない（準備することが苦手だ）から」「他の授業が大変だから」が各2名、「何のために学ぶ（活動・制作する）のか授業の目的が理解できないから」「ポイント（要点）をつかむのが苦手で、説明が理解できないから」「評価が低いから」「先生が褒めてくれないから」が、各1名いた。

表12）取り組み・器用さに関するアンケート
〔2020年1月28日実施、保育表現技術・造形Ⅳ履修生52名＆2020年1月20日実施、保育内容の理解と方法・造形Ⅱ履修生78名無記名回答〕

質問項目	選択肢	2019年度入学生		2018年度入学生	
		入学前	現在（1年終了時）	入学前	現在（2年終了時）
手芸は得意ですか	とても得意	6.41	7.69	7.69	23.08
	得意	39.74	42.31	36.54	57.69
	あまり得意ではない	21.79	32.05	30.77	17.31
	苦手	32.05	17.95	21.15	1.92
	分からない	0	0	3.84	0
手先は器用だと思いますか	とても器用	6.41	6.41	0	7.69
	器用	32.05	38.46	36.54	50
	あまり器用ではない	28.21	38.46	25	30.77
	不器用	30.77	16.67	28.85	7.69
	分からない	2.56	0	9.62	3.85
出来上がりをイメージして、一つひとつの工程を積み上げて、制作していくことは得意ですか	とても得意	2.56	6.41	5.77	17.31
	得意	20.51	39.74	19.23	50
	あまり得意ではない	50	33.33	51.92	32.69
	不得意	15.38	16.67	9.62	0
	面倒くさい	11.54	3.85	13.46	0
課題に対する姿勢はどうですか	与えられた課題以上のことに挑戦する	5.13	10.26	0	15.38
	与えられた課題を確実にこなす	33.33	50	50	65.38
	仕方なく課題をこなす（期限は守る）	43.59	23.08	34.62	9.62
	催促されればやる	11.54	8.97	13.46	7.69
	分からない	6.41	7.69	1.92	1.92
準備や制作に、手間ひまをかけることをどう思いますか	子どもの笑顔がイメージでき楽しいし、必要だと思う	33.33	55.13	26.92	78.89
	楽しくはないが、必要だと思う	32.05	33.33	42.31	17.31
	面倒だが仕方ない	20.51	5.13	15.38	1.92
	できれば手を抜きたい	11.54	5.13	7.69	1.92
	手間ひまを掛ける必要のないものを選ぶ	2.56	1.28	7.69	0
大変（苦しく）でも、子どものためならば頑張ることができますか	できる	32.05	47.44	17.31	82.69
	ある程度はできる	44.87	42.31	46.15	15.38
	あまり自信がない	16.67	6.41	32.69	1.92
	できない	3.85	2.56	0	0
	活動7内容によるのでわからない	2.56	1.28	1.92	0
造形の授業への学習意欲について	とても高い（積極的に取り組んでいる）	14.1	28.21	17.31	51.92
	高い（課題をこなすことで精一杯）	39.74	60.26	40.38	48.08
	あまり高くない	24.36	7.69	28.85	0
	低い	15.38	3.85	9.62	0
	分からない	6.41	0	3.85	0

8．1年間の振り返り（感想）

造形教育における保育実践力（子どもが主体のワクワク・ドキドキ・イキイキする保育を実践する力）を身に付けるためには、学生が主体的に、意欲を持って、子どものことを理解し、必要な知識や技術を習得し、保育実践に挑戦して、経験を積まなくてはならない。

しかし、スマートフォンを始めとする情報機器の発達に半比例して、実体験（コツコツとものを作り上げて行く経験、失敗や挫折を乗り越えた時に感じる満足感や成就感を味わった経験、周りの人と協働して造り上げた経験）が乏しくなってきている。

学生（1年生）が書いた、1年間の造形の授業を振り返り、成長したことや課題を含めた感想を見ると、制作したものを子どもたちの前で演じたり、お買い物ごっことして販売したりしたことで、達成感を感じたり、次への意欲につながっていることが分かる。特に、子どもの喜ぶ姿（笑顔）や感謝の言葉（ありがとうなど）は、保育をめざす学生にとって、かけがえ

のないものであることが分かる。

〈１年学生Ｄ〉

後期を振り返って一番印象に残ったのはお店屋さんごっこ大会でした。正直初めはなめていて、後半とっても苦しみました。…（略）…初めて協力する難しさと全員が同じ考えを持って取り組むことの難しさを知りました。モヤモヤしたまま本番をむかえたけど、子どもたちの笑顔を見るとふっ飛びました。子どもの笑顔は本当にすごい力を持っているんだなと感じました。

楽しそうに買い物をしている子どもたちの姿は、キラキラしていて、どれだけ保育士に向いていなくても保育士になりたい気持ちは強くなりました。

また、パネルシアターは実践することが出来なかったけど、鬼に関しては初めて実習で手ごたえをつかむことができすごく嬉しかったです。自分の作ったものに興味を示してくれて喜ぶ姿がこんなにもあったかい気持ちになるんだなと実習を通して思いました。…（略）…

〈１年学生Ｅ〉

…（略）…最初は作ったり描いたりする作業がすごく嫌いで、いやだなとかマイナスな言葉ばっかりでした。「どうせできんし」が口ぐせだったけど今では「挑戦しよう」や「がんばろう」と思えるようになりました。でもそれは１回１回授業を積み重ねて、道具の使い方や活動する意味を学ぶうちに、得意・不得意ではなく１つの活動を一生懸命取り組むことで自分の力になってくるんだなと思いました。…（略）…

特に、私が造形が好きになったきっかけは『お店屋さんごっこ大会』かなと思います。正直１年間で一番大変な時期でした。「本当に終わるんかな」とか不安もあったけど、毎日残って１つ１つの作品をつくることで大会がすごく楽しめたし、なにより子どもの「ありがとう」という言葉にすごく達成感ややりがいを感じました。商品は残ったりしたけど私としてはすごく自信にもつながった行事であり、頑張ろうと改めて保育者になりたいと思えたきっかけでした。それを機に造形に対する気持ちもすごく変わり、「子どもの気持ちを引きつける作品をつくりたい」と思えるようになりました。…（略）…

〈１年学生Ｆ〉

…（略）…最初はすることが多くて驚きました。でも、実習で実際に使うと、子どもはとても喜んでくれました。初めて、自分で作ったものを人の前で見せたりすることをしました。自分で作るからこそ、おもしろかった、すごいと言われるととても嬉しい気持ちになります。

私は作ったり描いたりすることがとても苦手です。でも、子どもが喜んでくれるなら下手くそでも一生懸命自分なりにつくりたい、と思えるようになりました。

周りの人と比べると「次はもっと上手なものを作りたい」といつも思ってしまいます。上手作ることが大切ではないけど、私は上手に作りたいといつも思っていました。半年経った頃には上手ではないしすごいと思えるようなものではないけど、周りと比べるのをやめました。自分が納得するものを作ろうと前向きに気持ちが変わりました。苦手なことはたくさんあるけど、やらないよりやってみた方がいいんだと思いました。やってみると、意外とおもしろかったりすることを、造形を通して感じることができました。また、子どもが作った作品も上手下手ではなく、その子どもの作る過程など全体的に評価できるようにしたいです。私が造形が苦手だからこそ、苦手な子どもの気持ちによりそって少しでも楽しいと思える機会を作れる保育士になりたいです。…（略）…

〈１年学生Ｇ〉

…（略）…限られた時間の中でどれだけ丁寧に作るか、沢山の量を作ることができるか、効率よく安全で安心なおもちゃやものを作ることが大切だと分かりました。お店屋さんごっこでは、チームワークの大切さ、効率よく作ることの大切さを学ぶことができました。あんなに沢山の商品を本当に作ることができるのかとても不安だったけれども、仲間と協力することで作り上げることができました。１人ではできないことも、大人数でやればできるのだなと思いました。

当日は、子どもたちの沢山の笑顔が見れて「頑張って良かった」と感じることができました。心を込めて丁寧に美しく作ることを大切にして、何事も取り組むようにしたいです。…（略）…

〈１年学生Ｈ〉

…（略）…いかに素早く丁寧に安全な、そして何より子どもたちを笑顔にするものを作るということが大事かということを学ぶことができました。１番はじめにかいた自分のなりたい保育者の姿、それは「子どもたちに寄り添える保育者」です。そのためにも、この授業で習ったたくさんの造形活動で、子どもを笑顔に、そして自分自身も笑顔になれるようがんばりたいな思いました。

後期の授業で、特に印象に残っているのは、お店屋さんごっこです。大会の日まで毎日毎日こつこつと作品を学校に残って作りつづける日々はとても大変でし

た。しかし、保育者なったらきっと毎日子どもたちのためにがんばる日々が続くので、今の学生のうちから経験することができたので、いい勉強になりました。また、実際に自分たちで作ったもので子どもたちが遊んだり、喜んでお買いものする姿を見ることができてこの笑顔のためにがんばってきたんだなと達成感を味わうことができました。…（略）…

〈１年学生Ｉ〉

…（略）…中学校でも、造形とかの成績はよくなくて、保育士になったら、やらなければいけないからといって、最初はとても嫌々やっているっていう感じでした。でもやっていくうちに中学校とは違って、自分の思い通りにできるし、これをすると決めてられてなくて、自分の思い通りにできる嬉しさを大学で学びました。

前期初めてスケッチブックをもらって、これ大丈夫かなって心配してました。最初の授業で折り紙とか新聞紙折った時とかは、「１年ついていけるかなとかあ～難しい‼」など思っていたけれど、友達も「手伝うよ」って手伝ってくれたり、家に帰ってもお母さんが作り方の見本をみせてくれたり、仲間って本当大切にしないといけないなって感じました。

８月に幼稚園実習に行って、はりこ人形を出した時とかは、「先生すごい、お友達になりたい」など子ども達が声をかけてくれて、良かったなとだんだん思い始めてきました。…（略）…

〈１年学生Ｊ〉

…（略）…作ったものを子どもたちの前で実践するときは、毎回緊張するし、不安になるときもあるけど、必ず子どもたちは喜んでくれるし、面白かったと言ってきてくれます。その姿を見ると、大変だったけど、作ってよかったと思えます。ものを作ったりするのが苦手な私だったけど、最初に比べたら、楽しいと思えるようになったし、自ら、いいものを作りたいと思えるようになりました。

〈１年学生Ｋ〉

…（略）…入学当初、造形は苦手だったけれど、今では子どもたちのために頑張ろうと思えるようになり、作る活動が好きになりました。実習で笑顔が見れたらすごく嬉しいからです。

…（略）…お店屋さんごっこをすることによって、子どもの目線になってから考えられるようになれたと思うので、これからも子どもたちからの目線や気持ちをよく考えられる先生になりたいです。…（略）…

〈１年学生Ｌ〉

…（略）…実際に実習で実践できるものをたくさん作って、それを実践したり、反省点を見つけることもできました。

最初は、造形活動があんまり好きではなかったけど、完成した時の達成感と、実践した時の子どもの嬉しそうな顔で、頑張って良かったと思いました。折り紙や切り絵を子どもに見せてあげると、すごく喜んでくれのたので、もっといろんな種類を覚えたいです。…（略）…

９．まとめ

子どもの笑顔と「ありがとう」の言葉は、保育者をめざす学生にとって、大きなエネルギーとなる。また、一度経験すると、子どもの笑顔と「ありがとう」の言葉を引き出す保育を行うことが目標となり、意欲的な学び（活動）のスイッチが入る。また、身体的にも時間的にも頑張った上で、子どもと直接関わり、成就感や達成感を体感してこそ学び続けることができる。

短期大学の教育課程、特に１年次は、幼稚園免許と保育士資格の両方を取得するための必修科目（学ばなくてはならない内容）で一杯であるが、早い段階から保育現場での実習（見学実習を含む）があり、子どもと直接関わる機会もある。

学生に、人（子ども）・モノ（材料・用具）・コト（実習や行事）と関わる機会を提供すれば、学生自らが学びの意欲を喚起し、伸ばしていくことができる。

子どもや利用者の活動（笑顔・真剣なまなざし）をイメージして、保育に取り組める保育者、そして、「教師が何を教えるか」から「学生が何を学んだか」に主体が変わったように、「子ども（利用者）が何を経験し、何を身に付けることができるか」という、子ども（利用者）の視点に立てる保育者を養成することが重要である。同時に、地域や保育現場との連携、実習や授業間の連携を深め、学生主体・子ども（利用者を含む）主体の保育者養成を行っていけば、地域でなくてはならない短期大学になり、生き残ることができるのではないだろうか。

10．終わりに

保育者養成は、本来施設保育士も想定した教育課程でなければならない、しかし筆者は、主に保

育園保育士・幼稚園教諭・認定こども園保育教諭、つまり就学前の子どもたちを対象とした保育者養成を前提とした教育を行っている。学習成果も、さらに成果を確認するための指標も、同様である。これは大きな問題と言える。

短期大学の２年間で、十分な資質・能力を身に付けさせることは、難しくなってきている。短期大学は、学生が自分の資質・能力を自覚した上で、学び続けていく意欲や姿勢を身に付けることを養成目標とし、卒業後（保育現場や編入大学など）も関係を持って支援し続けていかなければならない。

注及び引用文献

１）1947（昭和22）年公布・施行の教育基本法を改正したもの。文部科学省ホームページ（https://www.mext.go.jp/b_menu/kihon/about/mext_00003.html）

２）教育基本法に示された教育の理念の実現に向けて、今後10年間を通じて目指すべき教育の姿を明らかにするとともに、今後５年間（平成20～24年度）に取り組むべき施策を総合的・計画的に推進するもの。文部科学省ホームページ参照：https://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/pamphlet/08100704.htm

３）第９回教育振興基本計画部会（平成23年９月13日開催）で配布された資料 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/095/shiryo/__icsFiles/afieldfile/2012/12/18/1329013_02.pdf#search=%27%E3%81%93%E3%82%8C%E3%81%BE%E3%81%A7%E6%8F%90%E8%A8%80%E3%81%95%E3%82%8C%E3%81%9F%E6%A7%98%E3%80%85%E3%81%AA%E8%B3%87%E8%B3%AA%E3%83%BB%E8%83%BD%E5%8A%9B%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6%EF%BC%88%E3%82%A4%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%82%B8%E6%A1%88%EF%BC%89%27

４）教育基本法第17条第１項に基づき政府が策定する、教育の振興に関する総合計画（第２期計画期間：平成25～29年度）文部科学省ホームページ参照：第２期教育振興基本計画パンフレット（PDF：3660KB）

５）第２期教育振興基本計画において掲げた「自立」「協働」「創造」の３つの方向性を実現するための生涯学習社会の構築を目指すという理念を引き継ぎつつ，2030年以降の社会の変化を見据えた教育政策の在り方を示すもの。文部科学省ホームページ参照：第３期教育振興基本計画パンフレット（PDF：3.4MB）

６）子ども・子育て支援新制度は、幼児期の学校教育や保育、地域の子育て支援の量の拡充や質の向上を進めていくためにつくられた制度。内閣府ホームページ参照

７）Y短期大学では「学習」ではなく「学修」を使用している。山口芸術短期大学ホームページ「学 修 成 果」http://www.yamaguchi-jca.ac.jp/info/learning-outcomes/

８）未就学児がお買い物ごっこを楽しめるように商品や店舗を学生が手作りする。2019年度は10月20日（日）に開催し、約400名の未就学児が来場した。（写真12～16参照）

９）保育実践力（造形に関する）とは、子ども一人ひとりがワクワク・ドキドキ・イキイキする保育を行う（子ども主体の保育を実践することができる）力のこと。具体的には、①子どもの発達段階や経験、興味や関心を理解し、身に付けた知識や技能、制作した物、材料・用具や環境を活かすことができる力、②子どもがワクワク・ドキドキ・イキイキしている姿をイメージして、子ども主体の保育を計画（ねらいを定め）し、手間暇を惜しまず準備することができる力、③子どものワクワク・ドキドキ・イキイキを引き出す保育を展開することができる力、④子どもがワクワク・ドキドキ・イキイキする保育であったか、振り返り評価して、次の保育に活かすことができる力、と定義している。

10）保育表現技術・造形Ⅲに授業の一環として2019年５月12日（日）に開催した『第４回 あつまれ！チビッコ！遊びの広場』。制作コーナーやままごと（キッチン）コーナー、滑り台や迷路などの遊具コーナーなどを制作した。子ども274名と保護者など大人273名、計547名が来場した。（写真22～24参照）

11）山口県保育士養成校協議会が、山口県の委託を受けて開催している、保育者をめざす高校生対象のイベント。2019年は、地域の親子対

象の幼児向けの遊び・制作コーナーも設置した。

※学生の感想は、そのままを記載しているため、表現にバラつきがある。

参考資料

1）佐藤智朗「短期大学における保育者養成の課題」山口芸術短期大学研究紀要　第49巻p47～p59（2017年３月）

2）津田恵子・佐藤智朗「『保育実践力』習得のための態度や基礎を培う試み（１）―「保育表現技術・造形」と「保育表現技術・言葉」「言葉の指導法」の授業連携―」山口芸術短期大学研究紀要　第50巻p75～p90（2018年３月）

3）佐藤智朗「短期大学における保育者・介護福祉士養成の課題」山口芸術短期大学研究紀要第51巻p63～p77（2019年３月）

4）佐藤智朗「保育者養成のおける『お店屋さんごっこ大会』開催の意義と課題」日本保育者養成教育学会第４回研究大会抄録集p156（2020年３月）

付記

アンケート調査に、協力していただいた卒業生（2018年度卒）や在学生、スケッチブック（授業のまとめ）を使わせていただいた中村有那さん、スケッチブック（感想）を使わせていただいた在学生の皆さんに感謝申し上げます。